

The logo for TIA News! features a stylized globe icon on the left, composed of green and blue segments. To its right, the word "TIA" is written in a bold, blue, sans-serif font, and "News!" is written in a larger, blue, cursive font. The entire logo is set against a white background.

TIA News!

A large, golden, 3D-style "25th YEARS" is centered on a red background. The numbers "25" are significantly larger than the "th" and "YEARS". The text is surrounded by a laurel wreath. Below the main text is a dark red ribbon with the word "ANNIVERSARY" written in white, serif capital letters.

25th
YEARS

ANNIVERSARY

25周年記念特別号
2018.01.Vol.75

■ スポーツインドア企画

設計・施工
スポーツ施設全般



あらゆるニーズに対応します

本社：兵庫県宝塚市安倉北 5 丁目 1-2 TEL：0797-87-4747 FAX：0797-87-4770

関東支店：神奈川県相模原市南区相模大野 1-10-7 TEL：042-705-6167 FAX：042-705-6168

URL <http://tenttaro.co.jp> E-mail dpj@tenttaro.co.jp



株式
会社

FTC
Future Tent Creation
ダイエプロジェクト

JTIA News! 25周年記念特別号

目次

■ご挨拶		
公益社団法人日本テニス事業協会	会長 大久保 清一	2
■特別寄稿		
竹内庭球研究所	代表取締役 竹内 映二	3
公益財団法人日本テニス協会	植田 実	4
■日本テニス事業協会 25年の歩み		6
■JTIA 活動紹介		
総務委員会	委員長 増井 範男	18
税制委員会	委員長 濱中 豊治	19
広報委員会	委員長 吉田 好彦	20
安全委員会	委員長 金田 彰	21
事業委員会	委員長 栗山 雅則	22
普及委員会	委員長 新堀 丘	23
研修委員会	委員長 中山 和義	24
資格委員会	委員長 大西 雅之	25
クラブ部会	部会長 宮古 昌	26
スクール部会	部会長 蒲生 清	27
マネージャー部会	部会長 曾根 正好	28
コーチ部会	部会長 臼倉 明博	29
フロント部会	部会長 杉山 利昌	30
■JTIA について		31
■スペシャルインタビュー		
「日本で行われるオリンピック、絶対に出場したいです！」		
	プロテニスプレーヤー 綿貫 陽介	32
「テニスとの出会いから、世界ナンバーワン、そして東京パラリンピックに向けて」		
	車いすテニスプレーヤー 上地 結衣	34
■JTIA 賛助会員のご紹介		46

おかげさまで25周年!



公益社団法人日本テニス事業協会
JAPAN TENNIS INDUSTRY ASSOCIATION



公益社団法人日本テニス事業協会
会長 大久保 清一

「JTIA News! 25周年記念特別号」の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

本協会は、前身の日本テニスクラブ連盟とテニススクール事業者がテニス事業のさらなる発展を期し、平成4年に通商産業省(現、経済産業省)に認可され社団法人として発足し、その後、平成24年に内閣府の認定を受け公益社団法人となり、現在に至っております。

協会設立25周年を迎えることが出来ましたが、設立以来、会員の皆様のご理解ご協力はもとより、関係各位のご指導ご鞭撻の賜と深く感謝し心から厚く御礼申し上げます。

この間の社会環境、情勢の変化は大きく、現在まで長く続くデフレ経済と超低金利が日本の経済の躍進を多少さまたげているようで、今後は日本経済の成長と共に、国民所得の向上を伴う消費の増大による経済の活況が望まれるところです。

スポーツ界におきましては、最近のオリンピック等においても、近年の日本選手の活躍は目覚ましいものがあります。リオデジャネイロオリンピックでも多くの競技種目で計41個のメダルを獲得し、若いアスリート達が世界的に活躍し

ております。テニスでも錦織圭選手が銅メダルを獲得しました。それは、日本でオリンピック最初のメダルをテニス競技が獲得してから、実に96年ぶりのメダルでした。一方、卓球、バドミントン、陸上等多くの競技でも素晴らしい結果を残したことにより、相対的にテニスへの関心があまり盛り上がりず、少子化の中で子供達のテニス競技参加率アップが懸念されております。各競技種目間での子供獲得競争がより激しくなる中、テニス業界も力を合わせ協力してこの問題に対応していくことが重要ではないかと思っております。

スポーツ庁が平成27年に発足し、「スポーツは文化」として国民の皆様の日常の中により大きな部分を占めるようになり、生活の中にスポーツを取り入れることがごく自然に理解されるようになりました。この流れをしっかりと定着させスポーツ界、特にテニス界を今後も名実共に拡大成長させていくのは、私共事業者としての責務と考えます。

本協会は設立以来、テニス事業の健全な発展はもとより、我が国のスポーツ産業の振興に貢献すべく、テニス事業に関する調査・研究、指導・広報、セミナー・研修会等の開催、普及啓発、苦情処理等の事業に取り組んでまいりました。基本方針として『テニス事業界の人材育成』『テニスの普及活動』『テニス事業者サポート事業』に重点を置き、「テニス事業の健全な発展を図り、もって国民生活の向上に寄与する」ことを目的として、多くの課題の解消と合わせ、これからも活動してまいります。

本協会および会員テニス事業者は、明るく豊かな国民生活の形成に貢献する仕事に携わっているということを誇りに、テニス業界を進展させ、関係者ならびに関係諸団体の皆様と力を合わせ、テニス界の発展に寄与することをお約束し、ご挨拶とさせていただきます。



設立25周年に寄せて

竹内庭球研究所 代表取締役 竹内 映二

1990年代のある日、私は初めて故雑賀昇会長とお逢いしました。それは雑賀前会長が大会を視察されているときで、小浦猛志氏の紹介であったと記憶しています。

当時の私は現役を退いたばかりで、現役時代に培ったものと、引退してから学んだ新しいコーチングとの狭間で試行錯誤を繰り返していたとき、いや、四苦八苦していたときと表現した方が的を射ているかもしれません。そんな迷いの時期に雑賀前会長から「良いコーチになったね。このまま進めば必ず良い結果に結びつくよ。」と、今でも思い出せるほどの力強いトーンで励ましていただきました。そしてそのとき私は、何か清々しい気持ちになり、強く背中を押されたような感覚を覚えたのです。

おそらく誰にでもこんなことが、一度はあるでしょう。例えば、乗り越えられない壁に突きあたったとき、努力はしているものの何か強い不安に襲われてしまう。また、長期間に渡り状況を少しも改善できずに、「これは正しい道なのか」と疑心暗鬼になってしまう。今までの仕事が良い方向へ向かっているのかさえも疑い、自信を失い、逃げ道を探してしまう。そんなとき、自分を客観視してくれる第三者からのアドバイスは、とても貴重です。それは、時として暗闇の中の一筋の光のように、困難に立ち向かうための希望や勇気をもたらしてくれるものだからです。

あのとき、雑賀前会長がそれを分かって私に言ってくださったアドバイスなのか、今は残念ながら知る術はありません。しかし今確かなことは、その瞬間は私にとっ

て貴重な人生の分岐点であったということです。今も忘れることができない、まさしくウェイクアップコールのように、私の心に鳴り響きました。雑賀前会長の一言で、私は自分を取り戻せたのです。

そして、雑賀前会長亡き後も、大久保清一会長や加藤潤事務局長に、自らの想いを伝える場所を用意していただきました。その経験の中で、若い未来あるコーチ諸君と触れ合い、自分もコーチとして、また一人の人間として大きく成長することができました。

最後になりますが、多くの経験をさせていただいた公益社団法人日本テニス事業協会の皆様に感謝申し上げますと共に、設立25周年を迎えられましたことに改めて御祝いを申しあげたいと思います。本当におめでとうございます。この四半世紀の間に、私を含む多くの方々に転機のきっかけを与えたことと存じます。今後も変わらず、新鮮な感覚で、人々に影響を与え続ける貴協会でありますこと、そしてさらなる発展に導かれることを、心からお祈り申し上げます。





リオ五輪・デ杯を目指した4年間で感じたこと

公益財団法人日本テニス協会 植田 実

日本スポーツ界が目指す世界第3位の意味

日本オリンピック委員会は2020東京オリンピックで「金メダル数世界第3位」を目標に掲げ、国をあげて困難に立ち向かう覚悟を示してくれた。トップを目指すのはスポーツの世界だけではない。2015年にF1に復帰したホンダはその理由を「将来技術の開発や技術者の育成に大きな意義があると判断した」と説明し、WRCに参戦するトヨタの豊田章男社長は「道が人と車を鍛える」と語っている。世界のトップを目指すという困難な目標に立ち向かう中でしか得られないものがここにはあるという事である。日本人の力はこんなものではない、もっと高い能力を引き出せる。それに気づき磨き上げた時に世界をリードできる国となる。

1990年代に野茂、その後イチローが大リーグを目指した時、決してポジティブな論評ばかりではなく、むしろネガティブな評価の方が多かったと記憶している。しかし、今その功績は誰もが認める偉大な日本人のパスウェイとなった。テニス界においては伊達、錦織を筆頭に自分の可能性を世界に示している。しかしながら指導者としての可能性へチャレンジすることは十分ではない。選手も指導者も組織も世界を相手に立ち向かう時である。

リオデジャネイロオリンピックを振り返る

2016年8月14日は錦織圭が日本テニス界に96年ぶりのメダルをもたらした日である。準決勝でアンディー・マレーに完敗し、翌日の銅メダル決定戦を前に心の整理が何よりも優先された。大会を通じてサービス不調は否めないが、銅メダル決定戦ラファエル・ナダル戦での錦織のサービスは明らかにゲームの主導権を握ることにつながった。当日の朝、高田コーチとともに念入りにサービス練習に取り組む姿が印象的であった。銅メダルを獲得したことももちろんであるが、あの大一番でラファエル・ナダルに勝利したことはその価値を何倍にもするのである。

また、会場に着いたチームスタッフ、村外支援スタッフが申し合わせもしていないのに全員が赤いTシャツであったのには驚いた。みんな「当然」という表情でチームの心のつながりを感じた。

錦織のメダル獲得に隠れてしまったが、出場選手全員

が1回戦をクリアしたことは特筆に値する。1988年ソウル五輪でテニス競技が復帰して以来初めてのことである。一人一人、一試合一試合、一日一日が好循環としてつながる。ダニエルはベスト16でデルポトロ(アルゼンチン)に惜敗、女



子ダブルスの土居/穂積は全仏覇者ペアを破るなど一人一人に勢いが伝染していった。現在の杉田の躍進はジル・シモン(仏)戦で大いに予感させるものがあった。

選手・スタッフが自分の役割を果たしチームに貢献することが、最後の最後で質の高いチームワークを生むことにつながった。錦織はメダル獲得後のメディアインタビューで「日本のために頑張るのは、すごく心地いい」とコメントしている。日本のために頑張ることが困難を乗り越える大きな力となることを感じたオリンピックであった。

データ分析

今回、錦織がメダルを獲得するために強化情報科学委員会がトップ5人のサービスとリターンの分析を行った。その中でフェデラー、ワウリンカが不参加となり、ナダル、マレー、ジョコビッチに絞られた。彼らのサービスコース(1st & 2nd)、リターンコースにおけるポイント獲得についての分析はデータと映像を結びつけ可視化できるようにした。その理由はサービス後のショットさえコントロールできればストローク戦では必ず優位に立てる。また相手のサービスコースに対する予測精度が高度になればなるほど錦織の世界一のリターンは相手にとって脅威となるという仮説のもと分析項目を絞った。しかし、もしこれらの選手以外と対戦して破れるようなことがあった場合は意味をなさないリスクもあった。

監督としての仕事はこの分析データの中から何を選択し錦織とのミーティングにするかである。錦織の持つ論



理的直観力を最大限引き出せるかが鍵となる。まさに我々が試される時である。しかしながら、試合のラウンドが進むにつれて、翌日へのリカバリーに時間がかかる。すなわち分析ミーティングについての時間も限られてくるということである。特にナダル戦の前は心を整える時間が優先される中でミーティングを持てたのは30分であった。結果として勝てたことは錦織の総合力の高さに他ならないが、少なくとも必要ところにフォーカスし集中力や予測の精度を上げることに貢献したことは間違いないであろう。

マレーは毎朝レオン監督と前日の試合データをLTA（英国テニス協会：Lawn Tennis Association）で分析し毎日送られてくる分析結果をもとに話をしている。現在、世界の中で最も組織的にデータを活用している協会と言える。

2020 東京では世界一の分析を目指したい。また、選手がその必要性を理解し選手活動に役立ててほしい願いがある。

チームが「個」を育てる

デビスカップの中で成長した選手は多い。日本テニスはU16までチーム戦による強化・育成・教育を目指している。16歳からは「個」の力を磨くためにチャレンジする時である。そして数年後に磨かれた「個」たちが再びチームとして集まり、高い次元でのチームワークを生み出す。

フェドカップのコートサイドに興味深い言葉が書かれている。

「It takes more than skill to play for your country」

チームのマネジメントの変化

現在、選手の多くが海外ツアーを転戦しており、拠点を海外に持つ選手も増えた。以前のように集合型合宿は限られる。また、マネジメント会社を通してのやり取



りも増え複雑になった。しかしながら、決定権者はあくまで選手本人であることは変わらない。コーチングの最終目標は選手自身の心の中に優れたコーチを持つことである。チームもマネジメント会社もそれを支援することが何よりも重要である。「プレイヤーズファースト」の言葉を都合よく理解してはいけない。指導者が選手の遠征先に出向いて動向を探り、強化・育成・教育をしていく時代となった。特にテニス界を取り巻く環境が厳しいだけに「教育」に片足をおいた強化マネジメントが重要である。



ナショナルセンター

東京・西が丘にナショナルセンターができた時、ナショナルチームの選手が常にNTCで活動し海外遠征・試合に出かけるという考えであった。しかし、記録型競技と異なり対戦型競技は海外にその相手を求めていかななくてはならない。テニスで言うならばツアーである。ナショナルセンターはこれからの若手やジュニアがしのぎを削りながら教育される場所であり、トップ選手は合間に戻り英気を養ったり、怪我からの復帰をするための手助けをするところである。「準備ができたなら海外で勝負し磨きをかけてこい！」という場である。

あくまでトップ選手たちの拠点は「ツアー」なのである。

今後、地域・県にもトレセンが整備されてくるだろう。その場所で継続的に選手育成・強化と指導者の育成が行われることが未来のスポーツ文化となっていく。

2020年東京オリンピック・パラリンピックは先人たちが強く信じた日本人としての誇りと自信を国民の皆さんと一緒に共有する機会となるでしょう。

日本テニス事業協会 25年の歩み

1992

12月25日社団法人日本テニス事業協会誕生
(日本テニスクラブ連盟を発展させ、テニス事業者のさらなる
繁栄を期して船出をしました)



【日本テニス界】

- ・松岡修造が韓国オープンで日本男子初のツアー優勝
- ・秋篠宮殿下、(財)日本テニス協会名誉総裁に就任

【社会ニュース】

- 7月 バルセロナ五輪で日本は金3、銀8、銅11のメダルを獲得、岩崎恭子が14歳で金
- 9月 毛利衛さん、日本人初のスペースシャトル搭乗

1994

平成6年度調査事業「消費者ニーズに対応した機会提供、質の高いサービス提供の在り方」についての調査を実施



「テニスフェスティバル」開催



【日本テニス界】

- ・伊達公子がジャパンオープン3連覇
- ・フェド杯で日本女子初のベスト8進出
- 95年世界グループ入り決定

【社会ニュース】

- 7月 向井千秋さん「スペースシャトル・コロンビア号」で日本人女性初の宇宙飛行

1993

広報紙「TENNIS LIFE NOW」創刊号を3月に発行(~1995年)
情報紙「JTIA News!」創刊号を5月に発行

「第1回通常総会」開催



「日本テニス産業セミナー」開催

日本テニスクラブ連盟時より現在に至るまで、テニス事業・産業としてのテニスの発展・協会の活性化の推進を目的に毎年開催



「日本テニスチーム大会」を開催
協会の会員クラブメンバーやスクール生の技量の向上と親睦を図るための大会として日本テニス連盟時より毎年開催

【社会ニュース】

- 5月 日本で初めてのプロサッカーリーグ「Jリーグ」が開幕
- 6月 皇太子徳仁親王殿下と雅子さまの「結婚の儀」パレードに19万人の出入

1995

平成7年度調査事業の実現化として「顧客の創出・育成と、より良い環境提供のための“テニスフェスティバル”事業」を実施

国際車いすテニス大会「仙台オープン」開催



【日本テニス界】

- ・伊達公子が全仏で4大会日本女子史上初のベスト4進出
- ・伊達公子が世界4位、ツアー制度では日本選手最高位
- ・松岡修造がウィンブルドンで日本男子62年ぶりのベスト8進出
- ・沢松奈生子が全豪ベスト8に進出
- ・中牟田喜一郎氏が第10代(財)日本テニス協会会長に就任

【社会ニュース】

- 1月 「阪神淡路大震災」発生
- 3月 「地下鉄サリン事件」発生
- 11月 東京臨海副都心に「ゆりかもめ」が開業
- 米・メジャーリーグでドジャースの野茂英雄投手が新人王獲得



1996

平成8年度調査事業「テニス産業に関わる高度情報化に関する調査研究」を実施

＜調査対象のテニスに関する活動数・付帯事業＞

活動数(1)～年までにテニスプレーヤーは増加											
団体	男性	女性	合計	団体	男性	女性	合計	団体	男性	女性	合計
1996	104	104	208	1995	97	97	194	1994	91	91	182
1996	104	104	208	1995	97	97	194	1994	91	91	182

経年比較(2)～1年間でテニスプレーヤーは増加

団体	男性	女性	合計	団体	男性	女性	合計	団体	男性	女性	合計
1996	104	104	208	1995	97	97	194	1994	91	91	182
1996	104	104	208	1995	97	97	194	1994	91	91	182

経年比較(3)～テニスプレーヤーは増加している

団体	男性	女性	合計	団体	男性	女性	合計	団体	男性	女性	合計
1996	104	104	208	1995	97	97	194	1994	91	91	182
1996	104	104	208	1995	97	97	194	1994	91	91	182

出典：(株)ビエラ・シー・エー 調査報告書 1996.11



【日本テニス界】

- ・フェド杯世界グループ初戦でドイツを破る大金星、伊達が日本女子で初めて世界1位のグラフを破る
- ・伊達公子が日本女子初のウィンブルドンベスト4進出、グラフとの激戦は日没再試合となり、歴史的惜敗
- ・伊達公子が引退

【社会ニュース】

- 4月 三菱銀行と東京銀行が合併し、世界一となる資金量53兆円の「東京三菱銀行」誕生
- 7月 アトランタ五輪で日本は金3、銀6、銅5のメダルを獲得

1997

平成8年度調査事業の実現化として「テニス産業における高度情報化に対応する能力開発・人材育成事業」を実施



JTIA のホームページが誕生



【日本テニス界】

- ・平木理化が全仏混合でマヘシュ・ブバシ(インド)と組んで優勝
- ・松岡修造が引退(98年ジャパンオープンが最終試合)

【社会ニュース】

- 4月 消費税が3%から5%に引き上げ
- 12月 東京湾アクアラインが開通

1998

「テニスの日」スタート。有明メインイベント、共同イベント、個別イベントを各所で開催



民間テニス事業者の存続を脅かす「公営コート問題」について真剣な取り組みを継続実施



社団法人日本テニス事業協会のロゴマークを制定



最新の知識や情報の把握、指導育成システムの研究と実践を目的とした「ジュニア育成指導者研修会」をヤマハリゾート「つま恋」にて1泊2日で開催

【日本テニス界】

- ・沢松奈生子が引退
- ・国内テニス関係12団体と選手代表で「日本テニス振興協議会」結成、秋分の日を「テニスの日」と定める

【社会ニュース】

- 2月 長野冬季五輪で日本は金5、銀1、銅4のメダル獲得
- 5月 貴乃花と若乃花、史上初の兄弟横綱誕生
- 6月 日本、サッカーフランスW杯に初出場

1999

特別企画として「会員制テニスクラブの黎明期から今日まで」のテーマで協会の先達による貴重なお話をお聞きし「JTIA News! '99 Special」に掲載



特別企画第2弾「テニスクラブの歴史と今日」についてお話しいただき「JTIA News!」に掲載

平成11年度調査事業「新たなテニス愛好家創出を目的とした革新的会員制度ならびに利用システム及び料金体系策定のための調査研究」を実施

【日本テニス界】

- ・杉山愛が全米混合でマヘシュ・ブバシ(インド)と組んで優勝

日本テニス事業協会 25年の歩み

2000

平成12年度調査事業「テニス事業者による地域青少年育成支援への取り組みに関する調査研究事業」の実施

テニス人口裾野拡大のためにテニスをしたことがない、または経験の少ない子供とその親を対象にショートテニスによる「キッズ & ジュニアテニスカーニバル」がスタート



情報化時代に対応して会員の事業者の皆様、テニス愛好家の方々に利用いただけるようホームページを一新

【日本テニス界】

- ・ 杉山愛が全米でジュリー・アラール・デキュジス(フランス)と組んで優勝、同ペアでウィンブルドンも準優勝
- ・ 盛田正明氏が第11代(財)日本テニス協会会長に就任

【社会ニュース】

- 9月 シドニー五輪で日本は金5、銀8、銅5のメダル獲得
- 10月 マラソンの高橋尚子が国民栄誉賞受賞

2002

「民間スポーツ施設税制についての取組」・税制問題に端を発して民間スポーツ施設の閉鎖や縮小が取り沙汰される中、スポーツ関係団体が結束して「スポーツ施設を守る会」発足と「100万人署名運動」を実施



【日本テニス界】

- ・ アジア競技大会釜山で男子団体が28年ぶりの金メダル

【社会ニュース】

- 5月 日本・韓国共同開催のサッカーW杯で日本はベスト16優勝はブラジル
- 9月 北朝鮮の金正日総書記が小泉首相との会談で日本人拉致事件を認め謝罪
- 10月 日本人拉致被害者5人が北朝鮮から24年ぶりに帰国

2001

「21世紀の経営戦略策定」をテーマとして会員制クラブ、スクールのそれぞれの成功者の事例紹介等、分科会方式を取り入れて「TOPGUN PROJECT」がスタート



(株)船井財産コンサルタンツの協力により「これからのテニスクラブ経営」：副題(事業活性化から継承まで)の小冊子を発行



【日本テニス界】

- ・ 杉山愛がウィンブルドンでキム・クライシュテルス(ベルギー)と組んで準優勝

【社会ニュース】

- 3月 サッカーくじ「toto」の受付開始
- 9月 東京ディズニー・シーがオープン
- 9月 アメリカ9.11テロ事件発生
- 10月 「テニスの王子様」TV放映開始、テニスが大ブームとなる
- 12月 皇太子妃・雅子さまが愛子さまをご出産

2003

「設立10周年記念テニス産業セミナー」では今までお世話になった賛助会員や10年継続会員等の表彰を実施



公営施設活性化モデル事業として東京都立有明テニスの森公園においてスペイン式指導法を取り入れた「ポール・セダノ テニスアカデミア」を開催

【日本テニス界】

- ・ 杉山愛が全仏とウィンブルドンでクライシュテルス(ベルギー)と組んで優勝
- ・ (財)日本テニス協会設立80周年

【社会ニュース】

- 3月 イラク戦争、アメリカ軍がイラクへの攻撃を開始
- 12月 地上デジタル放送開始
アメリカ軍がイラクのフセイン元大統領を拘束



2004

団塊の世代が退職を迎える
2007問題に対して、業界から
ブームを興すべく「シニアブーム
を本気で興す!プロジェクト」を
立ち上げた



広く一般テニス愛好者を対象とする団体戦「有明チームテニス
コンペティション」が有明テニスの森公園を会場にスタート



【日本テニス界】

- ・アテネ五輪女子ダブルスで杉山愛・浅越しのぶ組が4位に入賞
- ・デ杯で74年ぶりにインドを破る

【社会ニュース】

- 8月 アテネ五輪で日本は金16、銀9、銅12のメダル獲得
- 10月 柔道の野村忠宏が五輪3大会連続で金メダル獲得
- 新潟県中越地震発生

2005

平成15年に施行された「指定管理者
制度」への調査・研究をスタートさせ、
豊島区立三芳グラウンドの指定管理を
受託



「賛助会員意見交換会兼懇親会」を開催



元テニスプレーヤー沢松
奈生子氏とタレントのヨ
ネスケ氏の両名を「ゆう
ゆうテニス大使」に任命

【日本テニス界】

- ・鈴木貴男・岩淵聡組がAIG ジャパンオープンの男子ダブルスで優勝、日本男子ペアとしてツアー初優勝の快挙

【社会ニュース】

- 11月 紀宮清子内親王殿下と黒田慶樹さんをご結婚

2006

コーチの資質向上を目指し2ヶ月に
1回のペースで「コーチ部会」をス
タート



「テニスプロデューサー資格
制度」がスタートし、第1回テ
ニスプロデューサー資格認定
講習会&試験を実施



各事業所の安全管理強化のため「AED(自働体外式除細動器)」の共同購入の斡旋を実施

「テニスプロデューサー資格制度」ロゴマークを制定



TENNIS PRODUCER

【日本テニス界】

- ・車いすテニスで日本人史上初めて国枝慎吾がシングルス世界1位の快挙を達成

2007

フロント部会の活動としてフロントスタッフの資質向上を目指
す「フロント・ステップアップ・アカデミー」がスタート

有明テニスの森公園・48面のコートを使
い日本最大規模のチーム戦「東京都
知事杯有明チームテニスコンペティ
ション」を開催



【日本テニス界】

- ・車いすテニスで史上初めて国枝慎吾が年間グランドスラム達成の快挙
- ・錦織圭が2月のデルレービーチ国際で、92年松岡修造以来、日本男子史上2人目のツアー優勝

【社会ニュース】

- 2月 第1回「東京マラソン」開催
- 10月 郵政民営化がスタート

日本テニス事業協会 25年の歩み

2008

テニスの普及を目的として本協会とテニス用品メーカー6社で「テニス活性化委員会」を設置しスタート

「15周年記念日本テニス産業セミナー」を開催



【日本テニス界】

- ・錦織圭が全米で日本男子71年ぶりの4回戦進出
- ・クルム伊達公子が5月に12年ぶりの現役復帰、11月の全日本選手権では16年ぶりに優勝

【社会ニュース】

- 1月 大阪府知事に橋下徹氏が就任
- 8月 北京五輪で日本は金9、銀6、銅10のメダルを獲得
- 9月 リーマン・ブラザーズ経営破綻

2010

「安全管理セミナー」がスタート



クラブ部会主催による「テニスクラブ創業者懇談会」を京王プラザホテルにて開催



【日本テニス界】

- ・クルム伊達公子が復帰後全仏で勝利

【社会ニュース】

- 1月 日本航空、会社更生法の適用を申請
- 2月 バンクーバー冬季五輪で日本は銀3、銅2獲得
- 6月 南アフリカでサッカーW杯開催、日本は決勝トーナメントへ進出
- 9月 尖閣諸島沖で中国漁船と海上保安庁の巡視船が衝突

2009

「テニス活性化委員会」の中に「始めよう部会」と「もっと続けよう部会」が誕生



【日本テニス界】

- ・(財)日本テニス協会、(社)日本プロテニス協会、(社)日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟の4団体で「日本テニス連合」を結成

【社会ニュース】

- 1月 バラク・オバマ氏が第44代アメリカ合衆国大統領に就任
- 3月 WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で原辰徳監督率いる日本が2大会連続優勝
- 8月 衆議院総選挙で民主党が歴史的勝利

2011

「有明の森スポーツフェスタ」が有明テニスの森公園 & 有明コロシウムにてスタート



コーチ部会の活動として、コーチの資質向上を目指す「コーチステップアップアカデミー」がスタート



【日本テニス界】

- ・錦織圭が世界ランキング1位のジョコビッチを破る大金星
- ・畔柳信雄氏が第12代(公財)日本テニス協会会長に就任

【社会ニュース】

- 3月 「3.11東日本大震災」発生
福島第一原発事故で深刻な被害
- 7月 サッカー女子W杯「なでしこジャパン」世界一



2012

社団法人日本テニス事業協会から内閣府認定の公益社団法人日本テニス事業協会へ名称変更



公益社団法人 **日本テニス事業協会**
JAPAN TENNIS INDUSTRY ASSOCIATION

マネージャー部会では、リーダーであるマネージャーが“人として成長し統率力を身につける”ことを学ぶ場とする「実践!“支配人養成塾”」がスタート

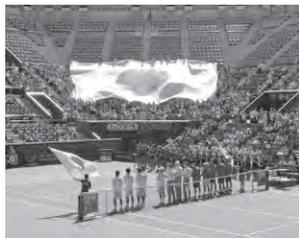


コーチ部会を中心に「PLAY&STAY」講習会を複数開催するなど、全国的に「PLAY&STAY」を広める活動を本格的に開始



【日本テニス界】

- ・ ロンドン五輪に錦織圭、添田豪、伊藤竜馬の3選出が出場、錦織圭ベスト8
- ・ ロンドンパラリンピック車いすテニスで国枝慎吾が2大会連続金メダル
- ・ デ杯のワールドグループ1回戦でクロアチアに惜敗
- ・ フェド杯ベルギーに勝利、ワールドグループ1部へ昇格
- ・ 錦織圭が楽天ジャパンオープンで日本人として男子シングルス初優勝し、直後の世界ランクで自己最高の15位を記録



【社会ニュース】

- 5月 「世界一の電波塔」高さ634メートルの東京スカイツリーが営業開始
- 7月 ロンドン五輪で日本は金7、銀14、銅17の計38個のメダル獲得で史上最多
- 10月 IPS 細胞研究で山中伸弥教授がノーベル賞受賞

2013

20周年記念日本テニス産業セミナーを京王プラザホテルにて開催



多年にわたり本協会の発展ならびに日本テニス界の伸展に多大なる貢献をいただいた賛助会員の方々を表彰

JTIA News! 20周年記念特別号を発行



「テニス事業の未来と事業協会の果たすべき役割」について委員長座談会を開催

定時総会にて大久保清一会長就任披露パーティを開催



【日本テニス界】

- ・ 錦織圭が全米国際インドアテニス選手権(翌年よりメンフィスオープンに改名)優勝
- ・ 錦織圭とマイケル・チャンがコーチ契約

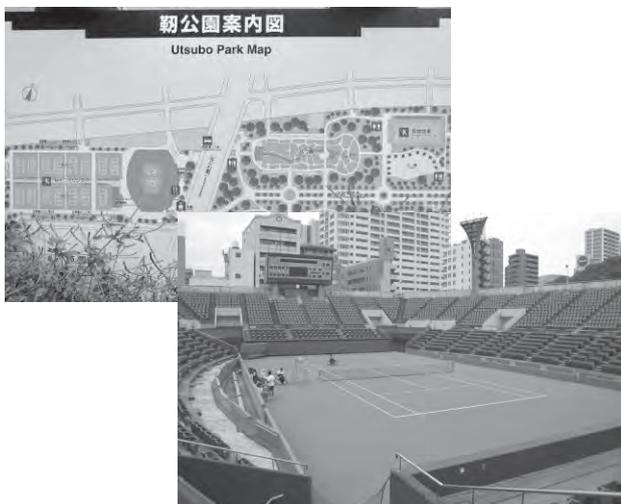
【社会ニュース】

- 5月 長嶋茂雄、松井秀喜に国民栄誉賞
- 7月 富士山が世界文化遺産登録
- 9月 2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定

日本テニス事業協会 25年の歩み

2014

「韮庭球場」「韮テニスセンター」を指定管理者として受託



フロント部会が韮テニスセンターにて勉強会を行ったり、近畿テニス事業協会主催の勉強会も増え、様々な学びの場が提供できるようになった。



テニスプロデューサー制度の一層の充実と有資格者の資質向上を目的に、各科目ごとを定期的に関催するフォローアップ研修会がスタート

【日本テニス界】

- ・ 錦織圭が全米で準優勝し、ATP ツアーファイナルに初出場（最終ランキング5位）
- ・ 西岡良仁がアジア大会で40年ぶりに金メダル

【社会ニュース】

- 2月 ソチ冬季五輪で日本は金1、銀4、銅3を獲得
- 4月 消費税8%に増税
- 6月 富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産に登録

2015

コーチ部会ではテニス技術だけでなく身体の構造、使い方を学ぶ為の「TPP による指導者養成塾」がスタート



フロント部会の“本気でフロントを楽しむ”をテーマにしたクラブ・スクールの要であるフロントを育成する「フロント育成塾」がスタート



【日本テニス界】

- ・ 上地結衣が2014年車いすテニス年間グランドスラム達成（ダブルス）史上最年少記録でギネス認定
- ・ 国枝慎吾が車いすテニス男子シングルス最多連勝記録でギネス認定
- ・ 錦織圭が自己最高位4位

【社会ニュース】

- 9月 ラグビーワールドカップ南アフリカ戦歴史的勝利で五郎丸ポーズが流行
- 11月 パリ同時多発テロ発生



2016

スクール部会で1年間を通してテーマを設け、より充実した勉強会を行う「スクール経営研究会」がスタート
「トリプルス」の導入計画が検討され始める



アメリカテニス事業協会との情報交換を兼ねた「NY テニス施設見学・US オープン観戦ツアー」を実施



クラブ部会にてパデル体験会を実施



【日本テニス界】

- ・大坂なおみが全豪・全仏・全米で3回戦進出し、WTA ツアー最優秀新人賞を受賞
- ・錦織圭がリオデジャネイロ五輪で銅メダル獲得
- ・上地結衣・国枝慎吾が共にリオデジャネイロパラリンピックで銅メダル獲得

【社会ニュース】

- 3月 北海道新幹線開業
- 3月 安全保障関連法施行
- 4月 熊本地震 M7.3発生
- 8月 リオデジャネイロ五輪で日本は金12、銀8、銅21を獲得

2017

コーチ部会では最新設備を使用した新しいレッスン方法を紹介する勉強会を開催



また「部活動コーチプロジェクト」を立ち上げ実際の部活動を見学、勉強会を開催



テニスの日が制定20周年を迎えた



トリプルス体験会を開催



【日本テニス界】

- ・穂積絵莉・加藤未唯組が全豪複ベスト4
- ・杉田祐一がアンタルヤオープン優勝（ATP ツアー初優勝）
- ・伊達公子が現役引退を表明
- ・内山靖崇・マクラクラン勉組が楽天ジャパンオープン優勝

【社会ニュース】

- 1月 アメリカ大統領ドナルド・トランプ就任
- 1月 稀勢の里、19年ぶり日本出身横綱誕生
- 2月 北朝鮮、大陸間弾道ミサイル発射・核実験
- 6月 最年少棋士藤井聡太四段、29連勝、最年少で50勝達成
- 9月 男子100m、桐生祥秀が日本人初9秒98

信頼に応え続ける
試合球「フォート」



ダンロップ・テニスボール・アドバイザースタッフ
松岡修造



信頼に応える
No.1^{*} テニスボール。

△開缶時、開缶後は切り口で指をケガする恐れがありますので、缶のフタや缶の内側に直接手を触れないでください。

※硬式テニスボール国内出荷量シェアNo.1 / 2014年硬式テニスボール年間国内出荷数量ベース 出典：(株)矢野経済研究所「2016年版スポーツ産業白書」(2016年3月)



国際大会を支える
試合球「スリクソン」

マイケル・チャン





UNLEASH
THE POWER
OF SWEET

眠った力を解き放て。

シリーズ史上最大のスイートエリアから放たれる
“爆発的パワーショット”

EZONE

ezone.yonex.co.jp



NICK KYRGIOS (AUS)
ニック・キリオス

YONEXTennisJapan yonex_jp yonex_jp

完成、 X-BLADEの極み



あなたのスイングにフィットした1本を。
ブリヂストンラケット・カスタマイズサービス

GRIP CHANGEで



ボレー
安定性UP!

SIDE PARTS装着で



コントロール
性能UP!

TOP BUMPER装着で



ストローク
パワーUP!

※カスタマイズは有料です。 ※写真はイメージです。

X-BLADE VI SERIES

エクスブレード ブイアイ シリーズ

■X-BLADE VI310 ¥34,000+税
重量:310g(平均) フェースエリア:95inch² ラケット長:27inch

■X-BLADE VI305 ¥34,000+税
重量:305g(平均) フェースエリア:98inch² ラケット長:27inch

■X-BLADE VI-R300 ¥32,000+税
重量:300g(平均) フェースエリア:100inch² ラケット長:27inch

■X-BLADE VI-R290 ¥32,000+税
重量:290g(平均) フェースエリア:100inch² ラケット長:27inch

■X-BLADE VI295 ¥32,000+税
重量:295g(平均) フェースエリア:98inch² ラケット長:27inch

■X-BLADE VI-R275 ¥30,000+税
重量:275g(平均) フェースエリア:100inch² ラケット長:27inch

ブリヂストンスポーツ株式会社

商品のお問い合わせはお客様コールセンター 0120-116613/平日 10:00~17:00(土日・祝日・当社指定休日は除く)

www.bs-tennis.com

BRIDGESTONE

あなたと、つぎの景色へ

G-TOUR[®] 3

「勝つ」ために、追究したのはインパクト時の「感覚」

G-TOUR[®] SERIES
第二弾登場!

インパクト時の
「感覚」が
クセになる!



製品PV

株式会社ゴーセン

大阪本社 / 〒550-0013 大阪市西区新町 1-4-26 ニッケ四ツ橋ビル 3F TEL.06-7175-7116 FAX. 06-6538-8238
東京支店 / 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-6-9 佐藤産業ビル 7F TEL.03-6386-1061 FAX. 03-6836-1065

GOSEN[®]



総務委員会

委員長 増井 範男

テニス事業者を代表する団体として、テニス市場に関する情報集約を推進して、全国のテニス事業者や事業所の基礎資料の作成のほか、会員事業所におけるデータ管理等を通じて、客観的かつ信頼性の高い情報の蓄積を図り、国民に身近なスポーツであるテニスの事業運営に関する情報を広く社会へと発信しています。

テニス事業の動向変化等を詳細に把握し、テニス事業の将来の事業展開への参考や新規参入検討企業、大学等研究機関、メディアなど外部からの問合せにも対応することを目的に、全国のテニス事業に係わる種々の実態把握を行い、集計データは広報紙であるJTIA News! やホームページなどを通じて施設利用者を含め広く公開もしています。

また、人々の健康と密接な関係にあるスポーツ事業者として、地球環境の保全に向けた各種活動には積極的に参画しています。「Fun to Share」への具体的取り組みとして以下の項目について調査及び研究を行っています。

①「砂入り人工芝のリサイクル」

使い古された砂入り人工芝は、従来より産業廃棄物として埋め立て処分となり、1面あたり約16トンが埋め立て処理され、産業廃棄物の最終処分場については全国的に数年で満杯になると予想されています。今後も増加傾向にある砂入り人工芝コート処分については環境保全という視点から我々はこの問題に真剣に取り組めます。本協会といたしましては、砂入り人工芝コートを産業廃棄ではなく、砂と人工芝を分離して砂は砂としての再利用、人工芝はサーマルリサイクルや他目的での再利用等を行い、廃棄物を一切出さないゼロエミッションを目指した「砂入り人工芝のリサイクル事業」を推奨し、引き続き更なる研究を続けていきます。

②「テニスボールのリユース」

使い古されたテニスボールは、机やイスの脚に取り付けることにより騒音が吸収されることから、NPO グローバル・スポーツ・アライアンスと連携し全国の小中学校などへ寄附をする「テニスボールのリユース活動」を推奨し今後も継続していきます。

そして、テニス産業界の活性化のために、各地区組織とも連携し既存の施設や指導者に協力いただき、テニス愛好者の拡大と新規需要の創出を即効的、効率的に行うための消費者参加型のイベントを展開し、より多くの国民にテニスを体験



する機会を提供することで、地域や消費者に密着した産業として定着を図っています。国民生活のゆとりと豊かさに寄与・貢献する産業として、テニス事業の安定的成長、振興を目指し消費者育成イベントの開催および関連団体等の同種イベントの後援をしています。

なお、本協会はテニス事業の社会的地位の向上を目的に活動している団体であることを非加盟テニス事業者にも周知し、テニス事業者が困った時に相談出来るような体制を整え、テニス事業者に役立つ情報提供を行い、積極的に会員数の拡大を推進しています。

各地区組織の活性化を推進するために、地区組織が開催する「消費者育成のための大会ならびに講習会」「新規需要創出のための大会ならびに講習会」「管理者・指導者の資質向上を目的とした大会ならびに講習会」等の事業に対する支援を行っています。

また、本協会のテニス界において果たすべき役割も年々増してきており、テニス事業者のみならずテニス関連企業との協力体制を築く事を目的に日頃よりご支援をいただいております賛助会員の皆様方との懇親をより深める会として、毎年1月に新春特別講演&賀詞交歓会と6月末~7月初に正会員・賛助会員/一泊懇親テニス&ゴルフを開催しています。

なお、これらの事業を円滑に行う為の事務局体制の強化にも鋭意取り組んで行く所存です。



税制委員会

委員長 濱中 豊治

税制委員会は日本テニス事業協会前身である「日本テニスクラブ連盟」時代より活動を続けております。テニス施設経営を取り巻く税制が現在も昔も厳しい状況であり、テニス施設を経営されている多くの事業者にとっては重要な問題であるからです。現況を的確に捉えた資料の作成や情報の収集、ひいては経営者自らも自己啓発や研鑽に努めることは税制改正要望や様々な活動を展開する上で必要不可欠なことです。そのため委員会では調査活動や勉強会の実施などを中心に行っております。

発足当初より継続的にテニスクラブおよびスクールの経営実態に関する調査を行っております。平成8年度より全会員対象に行っておりましたが、対象が広範囲であるが故の回収率の低さもあり、調査票の見直しや対象者の選定、時期の再検討等を余儀なくされました。また土地に関する税制のみならずテニス事業に関わる税制の調査、都市部と地方部での相違、個人経営と企業経営との相違などが相続問題や租税負担問題として浮き彫りになってまいりました。

翌年より前述の調査結果ならびに会員の要望を反映させた要望書を関係省庁や関連団体宛てに提出、またテニス施設経営者の署名運動も始まりました。その後この要望書は、他のスポーツ団体や関係団体と連携して、国民の余暇生活の充実、健康スポーツの場としてのテニス施設に関わる税制改正や優遇についての税制改正要望書として関係省庁や関連団体宛てに提出されております。平成14年度にはスポーツ産業団体連合会を通じて「スポーツ産業を取り巻く税制」というテーマでの調査研究を行い、スポーツ施設事業に関わる税金の在り方について提言をし、テニス界のみならずスポーツ業界全体の問題として訴え、より大きな声とし世論を喚起していく活動が始まりました。この活動は翌年には「100万人署名運動」へと発展し更に大きな活動となっていきました。

平成16年度には新たに相続物納後に於ける事業展開手法の調査研究が始まりました。これは相続物納後に事業継続が困難となり事業所の閉鎖や縮小をするケースが多く見られた現状に、有益な事例があることをもとに調査研究を行ったものです。

その後継続的に実施しておりました調査を「テニス事業に関わる租税及び経営に関する状況調査」とし、経営の参考にしていただくことを目的に定点観測方式にするなど見直しを行いました。現在もテニス事業に関わる



家賃・地代などの租税負担の実態や売上の増減、経費の内訳比率比較など経営の現状を把握する調査と研究を年1回行い、集計データは広報紙やホームページなどを通じて施設利用者を含め広く公開されております。

また並行して平成8年度頃より専門講師を招聘しての講演、事例紹介等を加えて構成する「税制勉強会」も開催されております。専門家をお迎えして相続問題の対応策や事例紹介、事業の安定継承を目的とした資産運用や節税対策についての勉強会などを開催してまいりました。平成22年度以降は相続税の増税に対応する勉強会、また税制とともに人事労務の重要性を考慮してリスク回避の勉強会を行いました。その後も税制改正のポイント解説や消費税アップへの対応、労務に関する勉強会を行っております。近年の多様な税制改正や新しい労務問題への対応をいち早くお伝えし、経営の参考となるよう情報収集のアンテナを張ってテーマ等を考えております。

近年では、「アウトドアテニスコートに関する固定資産税評価の是正交渉」への取り組みとして、専門家の方々とともに是正を要望する活動を行っております。

最後になりますが、今後も皆様の事業の発展のため、ひいてはテニス事業界の発展のために実りある活動を引き続き行って参りたいと存じますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



広報委員会

委員長 吉田 好彦

日本テニス事業協会が設立 25 周年を迎えるにあたり、1988 年に任意団体として発足した日本クラブ連盟からスタートし、1992 年には通商産業省の認可をとり、2012 年には内閣府に公益社団法人として認定された流れを考え、本当に多くの先人の皆様のご尽力があつての事と、今日まで協会の運営・発展にご協力されてきた全ての方々に心より感謝申し上げます。

広報委員会は、主に広報誌「JTIA News!」を年 3～4 回発行し各種調査や研究資料の公開、また各委員長や部長にご協力いただきながら各事業の活動状況をより多くの会員の皆様に知っていただくための活動、さらにホームページを通じて前述の活動を広く公開することで情報化社会への対応も進めてまいりました。

現在、日本の高齢化率は 26.7%（平成 27 年国勢調査人口速報集計）となり「超高齢化社会」として世界に注目されています。これは日本総人口 1 億 2,711 万人に対し、65 歳以上の高齢者人口が 3,392 万人となったことによるものです。世界保健機構（WHO）や国連の定義によると高齢化率が 7% を超えた社会を「高齢化社会」、14% を超えた社会を「高齢社会」、21% を超えた社会を「超高齢化社会」と呼ぶそうです。日本は 1970 年に高齢化社会、1994 年に高齢社会、2007 年に 21.5% になったことで超高齢化社会となり、この 10 年を比較するだけでも高齢化率は 5% 以上上昇したことが分かります。

このような状況の中、会員事業所の皆様も様々な対策を検討されていることと存じます。最近海外の研究において「テニスが健康や長寿に関して果たす効用」について、とても興味深い結果が発表されました。

まず英国オックスフォード大学の最近の研究として、Charlie Foster 博士は、「ラケットスポーツは単に身体的な有効性だけでなく、メンタル面、社会的側面においても大いにメリットがある」と指摘し、「消費者はこういった（ラケットスポーツの）メリットを正しく認識し、それにより自分自身や子孫の人生が長く豊かにできることを知ってもらいたい」と発表されています。

また、米国においてはスポーツメディカル専門家から構成される「Tennis Health & Wellness Task Force」が「テニスの効用」についてまとめたレポートの結果を踏まえ、Johnson & Johnson 人間科学研究所の創設者であり、USTA（アメリカテニス協会）等のスポーツ科学

委員長を永年務めた Jack Groppel 博士は、「テニスは長年にわたって生涯スポーツとしての地位を確立してきた。さらに世界的に有名な様々な科学者が明らかにしているように、テニスはあらゆる年代層において最も理想的なスポーツであると言える」と述べています。



この様に今までテニスプレーヤーがなんとなく感覚的に感じていたテニスと健康の関係が、医科学の観点から有益と証明されたことはテニス界にとって追い風となり、とても喜ばしいことと感じます。

今後は上記の事をより多くの方々に知ってもらい、実際にテニスに参加してもらうことがとても重要であると考えております。その為には Tennis Play&Stay の 10 歳以下向けの Tennis 10s だけでなく、大人向けの Tennis Express をより積極的に取り入れていく活動も必要になると考えております。子供から高齢者まで多くの国民がテニスを通じて健康を維持し、健康長寿で生き活きた社会づくりに貢献できることを目指し、情報の収集と発信活動の充実を目指してまいります。





安全委員会

委員長 金田 彰

平成6年、本協会に安全管理委員会が発足し、初版「安全管理マニュアル」が作成されました。テニス事業において、お客様に楽しんでいただく、上達していただくのは勿論なのですが、「安全に」という大前提を忘れてはなりません。安心安全があってこそ楽しいテニスライフなのです。当初はレッスンにおける安全管理や応急処置、スタッフへの安全管理教育が主なテーマであり、普通救命講習を軸に、テーピング講習等を実施してまいりました。平成16年厚生労働省医政局長の通知により一般市民もAED「自動体外式除細動器」による心肺停止者への救命活動が推奨されました。本協会においても積極的に会員の皆様にAED常備をお願いし、多数設置されております。普通救命講習におきましてもAED使用訓練が追加されました。実際にテニスコートの上や駐車場などで救命に使用され一命をとりとめた例もいくつか報告されております。このように法律の改定や社会環境の変化に伴い、その都度マニュアルを改定し、推進のためのツールも追加してまいりました。そして忘れることのない惨事が平成23年3月発生したのです。「東日本大震災」です。予測を超えた悲しい大惨事は多くの犠牲者を生みました。私たちテニス事業者も、災害や大きな損害が予想される緊急事態に対応しなければならないと強く思うに至りました。火災や自然災害、感染症、重大事故や事件に備え、お客さまや社員、スタッフの生命や身体、財産そして施設、会社を守らなければなりません。

安全管理委員会は翌平成24年に「安全委員会」に名称を変更いたしました。〔安全管理〕と〔危機管理〕の重要性を会員の皆様にお知らせしていくことを活動の方針としました。危機管理においては「人、施設、金銭、

情報、防火防災、防犯」に分類し、マニュアルを作成して研修を実施いたしております。また、法令遵守の観点からクラブスクールにおける会員募集広告作成時において守らなければならないルールを定めた「景品表示法」の勉強会、お客さま



とのトラブルを避けるための「クレーム対応研修会」を、東京、大阪で開催いたしました。本協会の会員企業(株)ネサンス様のご協力を得て、実際に起こった事例を基にした、有意義な実務研修です。(株)ネサンス様のご協力にこの場を借りて感謝申し上げます。また「コンプライアンス研修」も開催いたしました。法令遵守の重要性を講義していただきました、高木工業(株)様、野村不動産ライフ&スポーツ(株)様のご協力に感謝申し上げます。

安全委員会では今後ともテニス施設内の現状の安全管理や危機管理の実態、事故事例等の調査を継続し、その備えや不幸にも事故災害が発生してしまった場合の対応についての指針を作成するとともに、広報誌やホームページなどを通じて、安全管理、危機管理の意識向上・啓蒙を目的に安全セミナーを開催し、各種安全管理ツールを安全管理通信として会員の皆様に公開することを主たる活動としてまいります。





事業委員会

委員長 栗山 雅則

事業委員会では、4つの主な事業を行っています。

1つ目は東京都知事杯有明チームテニスコンペティションの開催（普及委員会と共同事業）です。この大会はテニスのメッカである有明テニスの森公園48面のテニスコートを使用し、土日の2日間をかけて行う国内最大級のチーム対抗戦です。開催にあたりガイドードリンク株式会社様に特別協賛、またその他協賛各社にご支援を頂いております。

大会は1チームがミックスダブルス3組で構成され、1日目は4チームによるリーグ戦が行われブロック順位を決定し、2日目は順位別のトーナメントを行います。その2日目には、トーナメント敗退チームにも大会をまだまだ楽しんでもらえるよう賞品を獲得するチャンスのある「パフォーマンスじゃんけん」「スピードガンコンテスト」「ターゲット9にチームで挑戦」「プロ選手に挑戦&ラリー」「エキシビジョンマッチ」等をイベントとして行います。

2004年から始まったこの大会は、2006年より東京都知事杯となり、13年間（2004年～2016年）続いておりました。毎年倍率4倍近くの抽選から選ばれた144チーム、1,000人以上の選手が参加します。しかし、2017年は残念ながら有明テニスの森公園が2020年東京オリンピック・パラリンピックのテニス種目会場に決定しており、現在改修工事の為開催できておりません。改修後には新たな会場で再びこの人気の高い大会を続けていきたいと考えております。

2つ目はテニス事業に関する各種商品・サービスの販売及び斡旋事業です。テニス施設総合補償制度、テニスクラブ・テニススクール管理運営ソフト“ペガサス”や“サービスエース”、AED（自動体外式除細動器）、クレジット決済システム“リターンエース”などのテニス事業に必要なシステムやツールを斡旋しています。販売事業ではJTIAオリジナルスクールのほりなどのグッズを取り扱っています。また砂入り人工芝コートは産業廃棄物ではなく、砂と人工芝を分離して砂は砂としての再利用、人工芝は多方面でリサイクルしております。

3つ目は指定管理事業です。現在は4ヶ所を行っております。小泉内閣の時に、「民間に出来るものは、民間に委ねる」との意向から、経費削減、サービスの質の向上、雇用の拡大、民間活力と競争原理の導入などの目的から

指定管理制度の導入が始まりました。

豊島区立三芳グラウンド（野球場2面、天然芝多目的運動場1面、テニスコート6面）は、平成17年4月1日から取り組んでおり、本協会として最初の指定管理事業です。有明テニスの森公園（有明



コロシウム、テニスコート48面）は、平成18年4月1日から有明テニス・マネージメントチーム、東京港埠頭株式会社、本協会がコンソーシアムを組み、テニススクールの他、キッズ&ジュニアテニスカーニバル、東京都知事杯有明チームテニスコンペティション、有明の森スポーツフェスタなどのイベントや、国際大会を行っています。目黒区立八雲体育館・宮前庭球場（体育館・トレーニングルーム・テニスコート2面）は、平成20年4月1日から取り組んでいます。ITC 靱庭球場・ITC 靱テニスセンター（テニスコート：ハード16面・アンツーカー4面）は、平成26年4月1日から取り組んでいます。全日本ジュニア選手権、世界スーパージュニア、デビスカップなどの大規模な行事が行われており、近畿地区でのテニスの一大拠点となっています。

4つ目は雑賀杯日本テニスチーム大会の開催です。各地区大会（北海道、千葉、埼玉、東京、神奈川）から上位8チームを東日本大会へ、近畿、広島から西日本大会へ、そしてこの両大会を勝ち抜いたチームで、雑賀杯日本テニスチーム大会・全国大会を有明テニスの森公園で開催しています。ここ数年では、各地区大会のエントリー数も増加傾向になっています。公益社団法人日本テニス事業協会前会長雑賀氏のご遺族から寄贈されたカップ（雑賀杯）を目指して、全国のクラブ、スクールの頂点を決める大会として、有明コロシウムをメインコートに毎年行っております。今年度は有明テニスの森公園が改修工事の為、大阪のITC靱テニスセンターで開催致します。



普及委員会

委員長 新堀 丘

今日、公益社団法人日本テニス事業協会が25周年を迎えることが出来たことは、会員の皆様の支えがあってこそです。この場をお借りして感謝申し上げます。

スタッフも厳しい数年間を懸命に頑張って走り続けました、ありがとうございます。

私が本協会の活動に参画するようになったのは『テニスの日』の活動からです。右も左も分からない中、バタバタしながら何とかやっていたというのが本当のところ。そしていつの間に『普及委員長』なる肩書を頂戴し、有明でのイベントを中心に活動しています。勿論、原点でもある『テニスの日』の活動も継続中です。

有明テニスの森公園は言わずと知れた国内テニスの聖地と言われる場所です。数多くの大会が開催され、数えきれないドラマが生まれる場所です。その有明を会場として本協会は多くの普及イベントを開催しています。

私が普及委員長として担当しているものは以下の通りです。

- ・有明の森スポーツフェスタ（事業委員会共催）
- ・テニスの日（有明イベント）
- ・キッズ&ジュニアテニスカーニバル
- ・東京都知事杯有明チームコンペティション（事業委員会共催）

この4つのイベントが毎年開催され、その準備と運営に追われています。実態は優秀な事務局スタッフが準備を完璧にしてくれるので、私は各社さんからスタッフを派遣してもらうことが何よりも大切な役目です。毎回、協力頂ける方が固定化しているのが現実ですが、新たに協力して頂ける会社さんも増えてきています。特に次世代と呼べる方たちが増えているのが何よりも嬉しいことです。ご存じとは思いますが、上記イベントにつき簡単に説明いたします。

有明の森スポーツフェスタはテニス用品会様と協力して事業委員会と共催で、毎年ゴールデンウィークに開催しています。テニスコート全面とコロシウムを使用して開催する一大イベントです。芝生広場にも多くのアトラクションを設け、一日楽しんでもらえる工夫がされています。ジュニア、キッズから大人の方まで、ご家族でも一人でも楽しめます。芝生広場はステージカーを入れ朝から最終まで様々なアトラクションが繰り広げられます。

このイベントは本当に手作り感満載なのですが、毎年多くのスタッフを首都圏近郊のテニス事業者の皆様から送って頂き、総勢100名以上のスタッフで運営をしています。こういう場で同業他社の方と一緒に仕事をすると色々な発見、気付きがあり研修の意味合いも大きいと感じています。

有明テニスの森公園が改修工事に入りましたので次年

度の開催はありませんが、再開されることを信じてじっくりと構想を練り直すつもりです。

テニスの日は普及委員会が担当していますが、我々テニス事業者には毎日がテニスの日です。しかしながら年に一度、全国的なイベントとし本協会だけでなく、他の協会・団体の皆様と共に作り上げています。

2005年に全国ボレーボレーをテニスの日に取り入れ、毎年10万人前後の方が参加して頂いています。レッスンの合間に数分間で出来るのでお手軽イベントとして浸透してきましたが、そろそろ新しい取り組みが必要かな？と感じています。皆様からのご提案を広く募集したいところです。

そしてキッズ&ジュニアテニスカーニバルです。近年は毎回体育の日に開催しています。コロシウムとアウトコートを使用して毎年300名前後の子供達が賑やかにテニスに触れ楽しんでます。この数年はジャパンオープン決勝の翌日が開催日となり、決勝の雰囲気が残ったセンターコートに子供達だけでなく保護者の方も喜んでる姿を見かけます。めったに入れないセンターコートで記念撮影する親御さんが目立ちます。素敵な思い出にして頂いていると感じています。

今後の活動としては前述したイベントに加え、子供達のプログラムである【TENNIS PLAY&STAY】のグリーンボール大会を開催していきたいと考えています。まだまだこのプログラムの認知度は高くないという状況です。我々のようなスクール事業者はジュニアテニスや大人の方の初心者、初級者の導入段階での有効なツールとしてグリーンボールを使用していますが、現状は単にそこだけで止まっています。やはり習い事をしたら発表の場が必要です。各スクールでのイベント的の大会を経て、地域や都道府県、更には関東や関西という纏まりある大会を作っていきたいと考えています。その際には是非、ご協力ください。

テニス事業がより盛んになり、若い優秀な人材がテニス業界に入ってくれるよう先人たちの教えをより育て、次につないでいきたいと強く願っています。今後もよろしくお願いたします。





研修委員会

委員長 中山 和義

この数年間、テニス事業は錦織圭選手が活躍してくれたおかげもあって、順調に推移してきたと思います。しかし、このような時期だからこそ、その好調に浮かれることなく、テニス事業に本当に必要な人材になって欲しい。そして、テニス事業に携われることに、喜びを感じて欲しい。このような思いから研修委員会では経営勉強会「TOPGUN PROJECT」、日本テニス産業セミナーを中心に研修事業を行ってきました。

TOPGUN PROJECTでは、異業種で活躍されている方に講演をしていただきました。出版した書籍が累計700万部を超えたベストセラー作家の本田健氏、メジャーリーガーの田中将大選手をジュニア時代に育てた奥村幸治氏、住民の反対運動を乗り越え、日本中から視察が来るほどに会社を成長させた産廃業者の石坂典子氏などに講演をしていただきましたが、コーチやフロントといった現在の仕事のやり方についてだけではなく、これからの自分の人生についても考える良い機会になったと思います。

また、TOPGUN PROJECT内ではテニス事業者で成功されている方々に事例を発表してもらいました。“スタッフをまとめるためにどのようなことをしてきたのか？”“生徒が集まらなかった創業時代を乗り越えるためにどんな努力を行ってきたのか？”“お客様に、より満足をしてもらうために何を行ってきたのか？”など、同業者にここまで話してしまっても大丈夫なのか？という内容について、素晴らしいプレゼンテーションを行っていただきました。参加された皆さんが、熱心に書いていただいたアンケートには、「すぐに自分の事業所で活用できるアイデアやヒントを数多く得ることができました。」「がんばっている事業者の皆さんから大きなエネルギーを受け取りました。」などの評価をいただき、私も大変嬉しかったです。

今後も、お役に立てるTOPGUN PROJECTを行っていききたいと思います。

研修委員会のもう一つの大きな事業、日本テニス産業セミナーでは、各地域・地区のテニス事業協会の皆さんのご協力のもとに、それぞれの地域の特性にあったセミ

ナーを開催させていただきました。平成26年は千葉県テニス事業協会、平成27年は北海道テニス事業協会、平成28年は神奈川県テニス事業協会、平成29年は広島県テニス事業協会と順に開催させていただきました。職業体験施設



「キッザニア」代表取締役社長 住谷栄之資氏、テレビでも有名な元衆議院議員 杉村太蔵氏、慶應義塾大学体育会庭球部総監督 坂井利彰氏、マツダのロードスターアンバサダー 山本修弘氏など、各地域で活躍されている多くの講師の方々にご講演をいただき、本当に学ぶことが多かったと思います。そして、各地域ともに2日目の施設見学では、テニス事業所の見学はもとより、観光や食事にもアイデアを絞っていただいたおかげで、参加していただいた皆さんが大変楽しむことができたと思います。地域を超えた経営者やスタッフ同士の新しい交流も、数多く生まれました。ある地域の方が「最初、テニス産業セミナーをお願いしますと言われたときには、本当にできるのかと思ったけど、何とか形にできました。おかげで、地域のテニス事業者がまとまる良いきっかけになりました。」と最後の懇親会で嬉しそうに話してくれたことが印象に残っています。これからも地域・地区テニス事業協会の活性化に役立つ日本テニス産業セミナーを開催していきたいと思います。

最後になりますが、研修事業は多くの方のご協力が必要できません。ここで紹介させていただいた事業にご協力をいただいた皆様に改めてお礼を伝えたいと思います。そして、これからもテニス事業に対する想いをさらに強く感じていただけるような研修を実施していきたいと思いますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



資格委員会

委員長 大西 雅之

資格委員会の活動の目的は「健全なテニス事業を行なうための人材を育成すること」です。

その活動の柱としているのは「テニスプロデューサー資格制度」です。

テニスプロデューサー資格制度は2006年に発足し、昨年までに12回の資格認定試験を行いました。昨年は、新たに26名のテニスプロデューサーが誕生し、現在、エグゼクティブテニスプロデューサー10名、シニアテニスプロデューサー45名、テニスプロデューサーⅠ69名、テニスプロデューサーⅡ93名の資格認定をしています。

日本経済を取り巻く環境は、グローバル化やIT化など、社会の仕組みは急速なスピードで変化しております。その激変する世の中で、テニス事業を進化発展させるためには、時代の流れを把握し、かつ先読みをし、自ら進んでいく方向を見出す「経営者」または、「プロフェッショナルな管理職」が求められます。

しかしながら、テニス業界においては職人気質の風土が根強く、業界団体として「学びの場」の提供は、技術力や競技力向上など指導、矯正、コーチングなどに関するものが中心で限定的なものだったと思います。

本協会としては、日本経済の中においてテニス業界を発展させていくためには、テニス業界として、冒頭に述べたような人材育成を促進することが不可欠と考え、「テニスプロデューサー資格制度」が発足しました。優れた人材に資格を与えることで、より一層の使命感を持って職務に邁進してもらい、テニス事業の活性化並びにテニス業界全体の社会的地位向上を図りたいと考えております。

まず、健全なテニス事業を行なうためには、適正な経営及び運営管理について正しい知識をもつことです。「テニスプロデューサー資格制度」では、テニスに関する知識はもちろんですが、管理監督者として経営資源である「人・物・金・



情報」を活かすための専門的知識も必要です。そのために、労務管理、イベント・商品販売、財務管理、安全危機管理、施設管理、顧客管理、マーケティングの科目を設定し、さらには組織力を高め継続していくために、後進の人材を育てるための人材育成を学び、資質と能力を醸成します。

次に、資格取得だけで終わること無くその知識を活用し、より深く学んでもらえるように、テニスプロデューサー資格更新ポイントを付与する研修を年間を通して開講することで、継続的に学ぶ仕組みを用意しています。そのことにより、知識を経験と知恵にすることで、テニス業界をリードする資質と能力を有する人材を育成することができ、それが目的である「健全なテニス事業を行なえる人材の育成」となります。

テニスを業とするものが資質と能力の向上を図ることでその事業の発展につながり、そのことで企業も個人も豊かになります。そのことが、結果としてテニス業界の社会的地位を高めることとなります。その実現のために、資格委員会が貢献できるように活動して参ります。

【資格取得者数】

エグゼクティブ テニスプロデューサー	シニア テニスプロデューサー	テニスプロデューサー Ⅰ	テニスプロデューサー Ⅱ	合計
10名	45名	69名	93名	217名

2018年1月現在



クラブ部会

部会長 宮古 昌

クラブ部会・後継者の会は、テニスクラブ創設者の2世を中心に結成されました。発足に際しては、創設者と後継者の2世代の発足交流会を行いました。この会の中、後継者の代表者から初代創設者が苦勞して作り上げたテニスクラブを立派に次世代へ繋げていく決意表明がされ感動的なスタートを切りました。以下にこれまでに何をして来たかを報告致します。

当初は情報交換程度の話し合いから始め、参加者が各クラブをよく知って相互理解を深め合う事を中心に進めてきました。成果としては、発表された良い所や悩み事の解決例などを各自持ち帰り自分の事業所に反映させました。又、クラブ訪問を重ね色々なノウハウの横展開に寄与出来たと思いました。そんな中、回を重ねていく中で出てきた問題として5年後10年後のクラブの存続の問題が提起されました。

第2段階として取り組んだのは、5年後10年後に生き残るための収益向上の手段に何かイベントの導入が出来ないか等を勉強する為に

- 1) 人工の砂浜でのビーチテニスの体験会
- 2) 色々なカテゴリーの試合を毎日開催して会員やスクールの生徒の会費収入ではなく試合の登録料で収支を確保する方法

等々、体験やノウハウを勉強しました。10年後位の近い将来を考えピンポイントでは無くクラブの未来創造スケッチについて考えると題して事例発表を行い、グループディスカッションを実施しました。方向性としてはテニスを残す為にテニスに縛られないアイテム出しが必要でないかとおぼろげに思われました。しかし、自分たちの未来をもっと明確にする為には自分自身を分析して理解することが必要でないかと気付きました。

第3段階としては、テニスプロデューサーのマーケティング科目の講師より『現状分析』『問題提起』『活性化』『問題解決』などの知識・手法を教えていただきました。

スクール部会で進めているトリプルススの情報を得て、クラブ部会・後継者の会としても体験会を11月に開催しました。3人制であることやグリーンボールの採用ということで最初はまごつきましたが、ダブルスよりカ

バーする範囲が少ないことから運動量的にも多少年齢のいったプレイヤー向きではないかと感じました。その特性を生かしクラブの『活性化』に利用出来るのではないかと、参加者それぞれが各クラブへ持ち帰りました。



今後のクラブ部会・後継者の会の活動ですが、5年後10年後のクラブの有り方を中心に色々な情報交換の話し合いやマーケティングの座学等を進めて参りましたが、テニスクラブの経営環境の改善等を検討していく上で後継者だけの問題では無いと感じている昨今です。クラブ構成員(会員)の高齢化や時代の変遷などに対応する為や効果的な打開策を見つける為の活動にして行きたいと考えています。既成概念にとらわれない自由な発想・考え方をする事により今までと違うスタンスで進めてはどうかという意見が出始めています。

そこで検討段階では有りますがクラブ部会の中に『クラブ経営研究会』を検討してみてもどうかという話があります。後継者以外に経営者・支配人・クラブ運営に携わる人を中心にテニスクラブビジネスの再構築を目指せたらと考えています。

最後に今後の抱負としては、近未来型のテニスクラブビジネスへの提案が出来る活動を進めて行く部会になればと思います。





スクール部会

部会長 蒲生 清

スクール部会では年4回のスクール経営研究会を開催し、第一部では参加者のスクール事業紹介、第二部ではテーマを設定しての勉強会、第三部では情報交換会という内容で、和やかな雰囲気の中、真剣な意見交換が行われています。

参加者のテニススクールは経営基盤や規模など様々ですが、皆それぞれの経験や知識を紹介しながら、毎回新しい発見のある研究会となっています。

また研究会の後の懇親会では、経営者としての重責から離れ、参加者相互の交流を深めています。

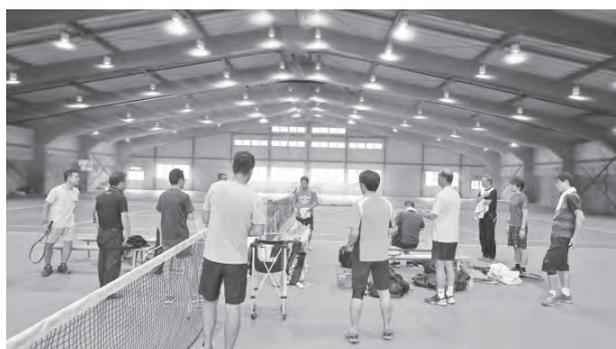
特に今年度は、高齢者を対象にした三人制競技「テニス・トリプルス」の構築とスクールでの導入を大きな目標にして、来年度からの普及活動に向けて準備しております。

この取り組みは既にバドミントンでは導入されていますが、三名でプレーする事により高齢者のダブルスでの動きの負担を軽減するのが目的でした。ところが6月の軽井沢での一泊研修会でトリプルス体験会を行ったところ、レベルや年齢に合った動きや戦略が楽しめ、テニスの三番目の競技としての可能性が大きいと参加者一同感

じました。

試合方法はダブルスのルールを基本とし、サービスもレシーブもしないもう一人のプレーヤー「リベロ」を設け、プレーが始まったら「リベロ」も競技に参加します。このリベロは3名で交代するのですが、細かいルールに関してはスクール経営研究会で検討中です。またボールは安全性を考慮してグリーンボールを使用します。

今後は当協会の加盟スクールでの普及、当協会主催の説明会や大会開催、そしてシングルスやダブルスに次ぐ第三の種目として広く普及させていきたいと考えております。





マネージャー部会

部会長 曾根 正好

◆2010年4月 マネージャー部会発足

「テニス事業においてマネージャーの役割は極めて大きい。マネージャーの資質向上が今後のテニス事業発展に欠かせない。」雑賀前会長のテニス事業に懸ける熱いご意志のもと、クラブ部会・コーチ部会・フロント部会に続き、新たにマネージャー部会を発足することとなりました。

◆2010年7月 部会の方向性を探るアンケート実施

これからスタートするマネージャー部会の方向性を決めるため、その職に就かれている方々に事前にアンケートを取らせて頂き、直面している問題を明確にすることから始めました。

<アンケートの結果>

Q1. マネージャーの優先業務

- 1位：財務(売上)管理 2位：人材育成
3位：スクール・クラブ・顧客の管理

Q2. マネージャーの役割

- 事業所運営全体(人・物・金)を把握し、問題点に対する改善策を講じる。
- 部下を大切に育て、チームで情報を共有し進むべき方向性を明確に示す。
- 従業員満足・顧客満足・売上増(利益確保)を目指す。

Q3. 直面している問題

- 「人材育成」「自己業務バランス」「収益確保・増収」「テニス愛好者の減少」

◆2010年12月 第一回マネージャー部会開催

テーマ『あなたの理想の新規事業所』『人材育成』『支配人の業務バランス』

◆2011年4月 第二回マネージャー部会開催

- ①『P/L・B/S・キャッシュフローから財務状況を読み解く』勉強会
講師 株式会社船井財産コンサルタンツ 萬代 猛 様 成島 祐一 様

- ②『東日本大震災後の対応』情報交流会

◆2011年12月 第三回マネージャー部会開催

テーマ『人材育成・モチベーションアップとチームワーク強化』

アクションラーニングという課題解決手法を用いたチームセッション

講師 株式会社シャイニング 代表取締役

下田 令雄 様

◆2012年8月 第四回マネージャー部会開催

テーマ『社長の私が思うマネージャーの在り方』講演

講師 株式会社レック興発 代表取締役 新堀 丘 様

ノアインドアステージ株式会社 代表取締役

大西 雅之 様

◆2012年12月 実践！第一期“支配人養成塾”開催

事業所のリーダーであるマネージャーが“人として成長し統率力を身につける”ことを学ぶ場とすることを目標に、「共に感じ共に考え、すぐ実行に移し、そして継続していく」この流れを実践していくため、年間全4回シリーズの“支配人養成塾”をスタートさせました。

<第一部>テーマ『自身が掲げた中期・年間目標の遂行』

コミットメントリストを活用したグループワーク

<第二部>テーマ「新規獲得」「継続率向上」「人材育成」

「リーダーとしての資質向上」

<第三部>テーマ

「自事業所のセールスポイント」 一人

5分間で全員が発表

<第四部>テーマ

「自社の経営戦略・支配人に求める物」

<ご講演いただいた講師の方々>

株式会社ITC 代表取締役 諏澤 誠

治 様

インドアテニスセンターウイング 代表

取締役 蒲生 清 様

株式会社スポーツクリエイト 代表取締役 金田 彰 様

株式会社テニスラウンジ 代表取締役 戸谷 晋也 様

高木工業株式会社 VIP・TOP グループ 総支配人

中嶋 康博 様

株式会社テニスユニバース 代表取締役 直江 智 様

株式会社クリヤマススポーツプロモーションズ

代表取締役 栗山 雅則 様

株式会社スポーツサンライズ 代表取締役

武市 広治 様

有限会社テニスピアジュエ 代表取締役 杉山 利昌 様

株式会社いさわ 代表取締役 井澤 義治 様

株式会社ユニコーン 代表取締役 矢沢 直樹 様

公益財団法人吉田記念テニス研修センター

アシスタントゼネラルマネージャー 吉田 好彦 様

株式会社レック興発 代表取締役 新堀 丘 様

株式会社 TOY BOX 代表取締役 塚本 将二 様

リエゾン株式会社 代表取締役 石川 孔紀 様

ホリバイインターナショナルテニス株式会社 代表取締役

小野 貴之 様

株式会社サイオ 代表取締役 金子 栄継 様

株式会社レック興発 第二事業部部長 冨塚 拓彦 様

株式会社テニスユニバース プレーイングマネージャー

大貫 正文 様

高木工業株式会社 スポーツ事業本部長 長南 雅之 様

大変貴重なご講演をいただきましたこと、“支配人養成塾”参加者に代わり厚く御礼申し上げます。

◆今後の抱負

明日のテニス業界を担う若きリーダーへ向けて、“支配人養成塾”に多少のリニューアルを加え進めていきます。養成塾当日だけに留まらずグループメンバーの『事業所訪問会』を行い、広く深く交流していきます。ご自身の目標を確実に達成し、その過程を通して新しい発見や多くの気づきを得る事で、立派なリーダーに成長していただきたい。“支配人養成塾”を通して共に勉強し共に成長していくことで、テニス事業発展のために微力ながらお役に立ちたい、このような想いで今後も進めて参ります。





コーチ部会

部会長 白倉 明博

コーチ部会は、平成23年7月に鴻巣敦前部会長の

1. コーチとしての社会的地位の向上
2. 仕事を続けていく上で将来に不安を感じているコーチに対して将来の展望
3. みんなで話しあって決めていく場の提供

という3つの財産を引き継ぎ、また今までコーチ部会に関わってこられた諸先輩方の想いを受け継ぎながら新たな活動方針として“5年後、10年後も活躍し続けられるコーチ（人財）の育成”をコーチ部会の活動の目的にスタートしました。

活動内容は、

1. テニスコーチ懇親会の開催（1つのテーマに対する色々なコーチの意見「物事の捉え方・感じ方・考え方・表現の仕方」を聞くことで新たな発見や確認をしながら見聞を広め、新人から中堅、ベテランまでを対象に誰でも参加可能にします。）
2. コーチステップアップアカデミーの開催（参加された皆様からのアンケートを参考に、現場のコーチから求めるご意見、要望の高い項目についてのセミナーを定期的で開催し、レッスンスキル向上、個人の資質の向上を目指します。）
3. 指導者育成事業の開催（育成強化・普及指導のスペシャリストから直接、指導方法について学ぶ事を目的とする研修会を開催します。）

上記3つの活動内容をコーチステップアップアカデミー・養成塾と称して、テニス界の厳しい現状を打破するべく事業者間の協力関係の強化を目指し、また変わりゆくテニス界の流れに対応すべく現状に満足することなく将来必要なスキルを皆様と一緒に勉強、活躍し続けるコーチ育成を目指し現在に至ります。

第1回目のTPPトレーニングスタジオ田中洋氏の

【レッスンですぐに役立つフットワーク、コートカバーリング、コーディネーションドリル紹介】からスタートし、25回目の【部活動コーチ（外部指導員・部活動指導員）を学ぶ】まで延べ1372名の方々に参加いただきました。講師の皆様



がご自身の知識や経験を中心に熱心にご講演くださり、参加した皆様のレッスンに対する知識が増えるだけでなく、テニス事業やご自身の将来すべき事に対するモチベーションも高めることに微力ながら協力出来たと考えております。

今後も、今まで通りコーチ部会メンバーと協力し、コーチの皆様が現場ですぐに役に立てるセミナーの開催とスマートテニスレッスンシステムのような最新設備の紹介や体験会も開催して参ります。また、最近ニュースや新聞記事等で部活動の外部指導者が非常に注目をされています。自民党が検討している「スポーツ立国推進法案（仮）」では「学校部活動の質を高めるために、部活動指導者の国家資格の創設を検討する」ことが盛り込まれる等、民間・公営のテニスコートが減少している中、学校の部活動での在り方はテニス普及においても非常に大切な時期にあると感じ、部活動についても今まで以上に力を入れて勉強会を開催し、5年、10年後にも仕事に誇りを持って続けられているコーチ（人財）が1人でも多くなるように今後も頑張ってお参ります。





フロント 部会

部会長 杉山 利昌

本部会はテニス業界におけるスクール事業者の増加により、フロント業務が年々その重要性を増しフロントスタッフのさらなるレベルアップの必要性を強く感じた雑賀前会長からの強い要請により、「フロントからテニス業界を元気にする」をスローガンに、2007年度より「フロント・ステップアップ・アカデミー」として3ヶ月から4ヶ月に一回、講師（他のサービス業界、接客マナー講師、業績を上げているフロント等）をお招きし、講演・意見交換する形で活動が始まりました。開講にあたり最初に考えた事は、自事業所以外に出る機会の少ないフロントのみなさんへの他事業所のフロントとの情報共有や皆さまが日頃から悩んでいることへの解決の糸口など、憧れられるフロントになるため接客に役立つ情報提供とフロントとしての連帯感を強くするため勉強会を開催してきました。

部会活動が8年経ち、さらなるレベルアップのために今までの単発の勉強会ではなく年間を通して学べる環境を提供するため、2015年度より新たに「本気でフロントを楽しむ」をテーマに「フロント育成塾」として活動が始まりました。フロント・ステップ・アカデミーとは違い、年間スケジュール・テーマを決めて年4回開催しています。育成塾は、受講生を4グループに分け年間を通して自身の問題・課題について考え行動し自身のレ

ベルアップを図ります。

毎回グループ内において各自活動報告をして他の受講生から意見を聞いてさらなるレベルアップをはかっています。さらに各グループ（5名～6名）による接客対応等情報共有や他施設への見学会を

副部会長を中心に実施しています。今年実施した「接客ロールプレイング」では各グループで1名がフロント、1名が体験者になり各事業の体験受付を実際に体験しました。その後、意見交換を行いましたを受講生にとっては他社の接客対応の違いを学べる機会として大変好評でした。このように単一事業所ではなかなか経験出来ない内容をこれからも開催してまいります。加盟事業所のみなさまの参加をお待ち申し上げます。

日頃、運営にご協力頂いてる事務局、副部会長の皆様本当にありがとうございます。



組織図



公益社団法人 日本テニス事業協会 第13期役員名簿

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長	大久保清一	狛江ローンテニスクラブ	理事	濱中 豊治	シンボウテニスリゾート
副会長	増井 範男	金町テニスガーデン	理事	平野 敬祐	ウインズテニスガーデン
副会長	栗山 雅則	株式会社クリヤマススポーツプロモーションズ	理事	藤本 正行	スポーツスクエア スターサップ
副会長	大西 雅之	ノアインドアステージ株式会社	理事	益山 茂	あざみ野ローンテニスクラブ
常務理事	新堀 丘	株式会社レック興発	理事	松岡 修造	プロテニスプレーヤー
常務理事	金田 彰	株式会社スポーツクリエイト	理事	松原 雄二	東戸塚松原テニススクール
常務理事	吉田 好彦	公益財団法人吉田記念テニス研修センター	理事	間野 義之	早稲田大学スポーツ科学学術院
理事	飯田 浩一	上用賀テニスクラブ	理事	村尾 孝之	株式会社サンリバー
理事	岡本 利治	株式会社ルネサンス	理事	八木 優幸	株式会社青山財産ネットワークス
理事	加藤 潤	公益社団法人日本テニス事業協会	理事	吉野 泰弘	Tennis ZONE Hesaka
理事	金子 太郎	テニスクラブ大井ファミリー			
理事	蒲生 清	インドアテニスセンター ウイング	監事	新井 忠之	桜台テニスクラブ
理事	小浦 猛志	テニス・テクニカル・アカデミー	監事	高山 義雄	青空税理士法人
理事	境 敬行	野村不動産ライフ&スポーツ株式会社	監事	矢沢 直樹	ジップテニスアリーナ
理事	杉山 利昌	ジュエインドアテニス			
理事	諏澤 誠治	株式会社ITC	顧問	石原 伸晃	衆議院議員
理事	長南 雅之	高木工業株式会社	顧問	小野 清子	
理事	戸谷 晋也	株式会社テニスラウンジ	理事待遇	宮古 昌	クラブ部会長/テニスガーデンレニックス
理事	中山 和義	緑ヶ丘テニスガーデン	理事待遇	曾根 正好	マネージャー部会長/株式会社スポーツクリエイト
理事	長谷川 信	長永スポーツ工業株式会社	理事待遇	白倉 明博	コーチ部会長/善福寺公園テニスクラブ

Special Interview

綿貫 陽介

「日本で行われるオリンピック、
絶対に出場したいです！」



18歳で全日本テニス選手権優勝、その後、国内外の大会で大活躍している綿貫陽介選手のインタビューです。

—今回はよろしくお願いたします。

綿貫 この度は25周年おめでとうございます。いつもサポートありがとうございます。

—今の練習の拠点はどこですか？

綿貫 日本では有明での練習と色々な海外の環境を見て、今後の拠点作りに動いています。今は、主にアメリカのIMGや、ボブ・ブレットさんのいるイタリアにも行っています。

—練習の環境はどうか？

綿貫 今年は自分が練習としてなかなか行けなかった海外に行く事が増え、新しいコーチやトレーナーなどの出会いがあり、すごく充実していたと思います。

—現在特に何を課題にして取り組んでいるのですか？

綿貫 長いツアーを戦い抜く怪我をしないタフな身体をメインに、テニスでは攻撃的に主導権を取れるようなスタイルの練習をしています。

ー2016年の全日本テニス選手権のシングルスで優勝してから何か変わりましたか？

綿貫 自分の自信にもなりましたし、応援して下さる方も凄く増えたと思います。

ー今までの自分自身のベスト試合は？もしくは何かきっかけになった試合は？

綿貫 2016年の全日本テニス選手権は、1試合1試合が色んなきっかけを掴むチャンスだったなと思います。

ーグランドスラムに出場するために何が必要だと思いますか？

綿貫 大きな大会で勝つこともそうですが、アベレージで1年間通して勝ち続けて行くことが必要になって来ると思います。

ーこの1年で成長した事は何だと思いますか？

綿貫 改めてテニスのプロというものと真剣に向き合った1年でした。精神的な成長が大きかったと思います。



ー海外含めて試合以外で楽しかった事はありますか？

綿貫 海外で日本食巡りをするのがとても好きです。日本食だけど海外の雰囲気もあり、とても面白いです。

ー大会運営への希望等がありますか？

綿貫 日本で行われる大会は、僕はどこの国で開かれる大会よりも選手にとっても良い大会になっていると思います。

ーテニスの魅力はなんですか？

綿貫 他の競技と違い個人競技で自分自身のみでプレーをする競技ですが、その中に沢山の方々のお陰でプレーをできてる。その感謝をコートで自分自身の手で表現できることだと思います。

ー2020年東京オリンピックがあり、日本スポーツ界にとって大きな分岐点になるとは思いますが、いかがですか？

綿貫 テレビでずっと見ていたオリンピックが、自分にも出場するチャンスがあるかもしれない所まで来ています。さらに日本で行われるオリンピック、絶対に出場したいです。

ー最後に応援してくれている方々に一言お願いします。

綿貫 皆様いつも応援ありがとうございます。まだまだ若者らしく精一杯勝ちにこだわってファイトして行きたいと思います。自分のペースでグランドスラムとオリンピックに出れるよう、ひたむきにコツコツと頑張ります！

綿貫 陽介●日清食品所属／1998年4月12日生／181cm・65kg／埼玉県さいたま市出身／右利き・両手バックハンド／ATPランキング351位・JTAランキング12位(2017年11月27日現在)

ITFワールドジュニアランキング最高2位。2016年1月プロ転向後、世界スーパージュニア選手権優勝、全日本テニス選手権で優勝。2017年、IMGのマネジメントのもと国内外のITFフューチャーズやATPチャレンジャーに出場し、東京有明国際オープン2017と台湾でのITFフューチャーズで優勝。





Special Interview

上地 結衣

設立 25 周年に寄せて

日本テニス事業協会 25 周年を記念して、車いすテニスプレーヤー上地結衣さんにテニスとの出会い、世界ランキングナンバーワンとしての日々、東京パラリンピックに向けた思いなどを語っていただきました。

(インタビューアール 広報委員長 吉田好彦)

吉田：協会設立 25 周年 JTIA News! 記念号に掲載すべく、本日は上地結衣選手にインタビューをお願いしました。上地選手、どうぞよろしく申し上げます。

上地：協会設立 25 周年おめでとうございます。どうぞよろしく申し上げます。

■テニスとの出会い

吉田：テニスをはじめたきっかけは何ですか？

上地：4 歳上の姉が中学で軟式テニス部に入っており、「お姉ちゃんと一緒にやりたい!」と思ったことがきっかけで 11 歳から始めました。

吉田：最初から車いすだったのですか？

上地：最初は立ってプレーしていました。それ以前に車いすバスケットをやっていたので抵抗はなかったのですが、姉とやるなら立ってプレーしたいと思い、最初は立っている場所にボールを出してもらっていました。それはそれで楽しかったのですが、ふと隣のコートで動き回って打っている人を見たとき、だんだんと自分も走りたくなってきて…でも自分から「乗りたくない」と言った手前なかなか言い出しにくく、「車いす乗ってプレーしてもいいけど…」などと母に切り出したことを憶えています。

吉田：上地選手以外にご家族で左利きの方はいらっしゃいますか？

上地：私だけです。親は習字やピアノで矯正しようとしたらしいのですが、どうやら左の感覚が強過ぎたようです。やり過ぎると情緒不安定になるからと周囲にアドバイスされて断念したそうです。おかげで細かい指先の作業などは右の方が速いのですが…習い事は他にも水泳や公文に通っていましたね。

吉田：何故テニスにはまったのでしょうか？

上地：いざ車いすに乗り始めるとスピード感が全然違って…どんなボールも拾える気がして楽しかったです！

■世界への挑戦

吉田：チェアワークだけは誰にも負けないそうですが、やはり車いすバスケットの土台があったからでしょうか？

上地：実は自分で言ったことは一度もないんです(笑)。国枝さんがほめてくださったので色々なメディアに取り上げていただくのですが…未だに自分ではチェアワークは遅いと思っています。

吉田：えっ！それは意外です。チェアワークでないとするとご自身の強みはどこにあると感じていますか？

上地：ここへきてようやくといった感じなのですが、一つはポイントの最後までイメージしながらプレースメント・展開を考えること、二つ目はそれをいかに精度高くできるか、がポイントです。パワーのある外国人選手は、フォアハンドやサービスといったショットを軸に考えられると思うのですが、私の場合は全てのショットが平均的にできうえで、対戦相手によって組み合わせを変えないと戦えないと思っています。その軸を作ってくれたのが、2011 年 2 月からパーソナルコーチとしてお世話になっている千川(ちかわ)コーチです。

吉田：千川コーチは対戦相手の分析や戦術面のアドバイスもしてくれるのですか？

上地：はい。自分でも試合のビデオを見返して、客観的に見たことと試合中に感じたことのすり合わせを行いますが、千川コーチにも全試合のビデオをお渡ししています。移動中もずっとビデオを分析して、「次はこうしよう」とアドバイスをくださいます。

吉田：いくら作戦を立ててもご自身の調子の波もあるで

しょうし、対戦相手のイメージが違うといったこともあるのではないですか？

上地：調子の善し悪しもありますが、基本的に外国人選手は好不調の波が大きい傾向にあるので、序盤で押されていても我慢して、そこからどう崩していけるかが勝負だと思っています。精神的になるべく波を少なくするようには意識していますが。

吉田：そのために普段の生活から意識していることはありますか？

上地：普段の生活はあんまり…（笑）

吉田：こうしてお話しを伺っていても、常に場を明るくしてくださって助かります（笑）。試合中も笑顔で楽しくプレーすることを意識されているように見えるのですが？

上地：ロンドンパラリンピックの後から意識するようになりました。それまでは、かなり負けず嫌いなこともあり、試合中もイライラしたりしていました。ロンドンでは、初戦が初対戦の地元選手でショーコートに入ったのですが、分からないことばかりで不安が募り、満員の観客を前に初めて手が震えました。毎試合緊張もしたし、ベスト8を懸けた試合に負けたことは悔しかったのですが、試合自体を楽しむことができ「今の相手のポイント上手かったな〜」などと自然に笑うことができました。それからは、集中し過ぎて何も見えなくなるよりも、相手のナイスプレーや自分のミスにも笑えるくらい心に余裕をもった方がいいと考えるようになりました。

吉田：当時18歳ですよね。世界の檜舞台に立ちながら、ある意味客観的に自分の試合を見ることができるといのは…センスとしか言いようがない。

上地：センスではないです（笑）。

吉田：その時に千川コーチは？

上地：ロンドンには帯同していませんでした。

吉田：世界を目指そうと思ったのはいつですか？

上地：やはりロンドンの時です。その後は就職か、進学、留学を選択肢として考えており、テニスはやめるつもりでした。両親とコーチにも「これでやめるから」と出発前に伝えていました。ところがエスター選手と国枝選手の優勝を見た瞬間、「いいな…」「羨ましいな…」という感情がわき上がってきて…少しずつ気持ちが変わっていききました。

吉田：テニスをやめようと思った理由は？

上地：テニスが嫌いになったのではなく、パラリンピックに出るという目標を達成したので…テニスを通じて広がった世界をもっと見てみたいと思いました。10歳から8年間テニスをさせてもらい海外の選手と触れ合ってきた中で、国際関係の勉強をしてみたいと思いました。17歳で千川コーチと出会った頃はまだ20位前後で、「リオに出られるように頑張ろう」と思っていました。それがあれよあれよとランキングが上がり「えっ！ロンドン



に出られるの？」って…

吉田：3回も全日本チャンピオンになっていたのに？確かにあの頃はエスターやワイリーも強かったですもんね。

上地：私もまだ学生でしたし、遠征費用ももらえてなかったですし…出られると思ってなかったですね。

■世界ナンバーワンとして

吉田：そのような中、2013年末に開催されたマスターズでオランダ人選手以外では初となる優勝を成し遂げられます。しかも国枝選手とアベック優勝でした。その時はどのような感覚でしたか？

上地：ラウンドロビンが全然ダメで…千川コーチと練習しながらもボロボロ泣けてきて…試合に納得できず、練習に納得できず、「明日決勝なのに…」と泣きながら思ったことを憶えています。

吉田：そこからどうやって立て直したのですか？

上地：コーチに「なんで泣いてるん？そんな悪くなかったし、気にしすぎやろ」と言われ気持ちが変わりました。今から何か急激に変わるわけでもないし、「なにがなんでも優勝！」とか思わなくてもいいかなって力が抜けました。決勝も2-5までいってしまい、コーチも「終わった」と思ったそうです。そこから何とか挽回して優勝することができました。

吉田：持ち前の考える力が働いたのですよね。当時、世界を意識して思い描いていた景色と、いま実際に世界ナンバーワンになられて見える景色の違いはどうか？

上地：もうギャップだらけですね。今回は2回目のナンバーワンなのですが、2014年に初めてなった時は、焦りしかありませんでした。ずっと1位が目標ではあったのですが、感覚的には次の年くらいをイメージしていました。それが全米OPで優勝し、ジャパンOPで優勝し、トントン拍子に進んでもう1位かと…目標としていた位置に立っていることにふと気付いた途端、「自分が想像していた1位はこんなじゃない…」とってしまい、「もっとこうしなければ」などと、1位としてあるべき姿が次々に思い浮かんで、試合中も何をしたらよいかわからなくなっていました。当時は何をしても落ち着かない状態でしたね。

吉田：でも、その年にダブルスで年間グランドスラムを達成されましたね。21歳135日での達成は「女子車いすテニスにおける最年少でのグランドスラム」としてギネス世界記録に認定されています。

上地：ダブルスをしているときの方が、落ち着いて試合を楽しめていましたね。その前に国枝さんが1位になった時の感想を「誰の背中も見えなくなり、燃え尽き症候群になった、無気力になった」とインタビューで答えていらっしやったのですが、「このことを言うんや」と実感しました。決して無気力ではなかったのですが、自分の中の理想が高すぎて「こんなんで1位とか言ったらあかん」と思っていました。

吉田：では今回の2回目の1位についてですが、2014年よりグランドスラム優勝回数が多い(3回)、しかも全豪OPは初優勝でした。

上地：全豪OPの優勝はリオのメダルより嬉しかったかもしれません。金メダリストであるジェシカ(・グリフィオン)にも勝てたし、17歳の時から狙ってなかなか獲れなかったタイトルなので…色々な思い入れもあって、プレー面でもリオの3位決定戦より納得できたので…

吉田：ウィンブルドンではダブルス4連覇でした。

上地：はい。これはパートナーであるジョーダン(・ワイリー)のおかげです。彼女も怪我でしばらく試合から遠ざかっていたので、最初は無理だろうと思っていました。ところが第1シードが欠場になって…そこからの気持ちの入り方は彼女がパートナーだったからこそです。

吉田：今年はペアを引っ張る側だったのではないですか？

上地：どちらかという気持ちの面では引っ張ってもらっていました。実は、ウィンブルドン直前に車いすを変えたのですが、準備期間がなかったこともありシングルスは2回戦敗退でした。芝のコートの影響もあったかもしれませんが、戦い方が分からなくなっていました。そんな時期に彼女と組んで…続けていたぶん私の方がプレー勘はありましたが、気持ちの面で彼女の気迫に後押しされていました。

■さらなる進化に向けて

吉田：ところで、何故ウィンブルドン直前に車いすを変えたのですか？

上地：他の選手が長くても2年くらいで乗り換えるところ、私は6年も乗っていました。おかげで最近の流行とか分からなくて…加えてリオ後ということもあって、元々今年はそこまで重要視していませんでした。2020東京までに自分の車いすを確立させることを考えると、今年はタイトルを獲るよりも車いすをつくろうと…本当は4月に出来上がる予定だったのですが…(笑)

吉田：ということは、もし予定通りに車いすが完成していたら…タラレバの話をしては仕方ないか(笑)、あまりいっぺんに成し遂げちゃってもね…楽しみは先にとっておきましょう(笑)。ところで色々なインタビュー記事を見ると、“常に楽しむ”をキーワードにされているようですが、いつ頃から意識されたのですか？

上地：う～ん…楽しくなかったら続けたくないというか…練習や試合に行きたくない、やりたくないという気持ちが出た時は辞める時だと思っています。正直、思った時がなかったと言ったら嘘になります。ただ、コートに入ったら、ボールを打ったら、やっぱり“楽しい!”となるので、その気持ちがあるうちは大丈夫だと思っています。

吉田：その“楽しい!”という感覚は、はじめてお姉さんとボールを打った時から変わらないものですか？

上地：楽しさを感じるポイントだったり、楽しさの質は年々変わってきています。最初は「ボールを打てた!」からはじまって、やがて「試合に勝った!」に変わり、今は勝ち負けも大事ですが、自分の中の目標を達成できた時や練習してきたことが試合で出せた時が楽しいと感じます。試合でも練習でも、そういった感覚を持ち続けられるように努めています。

吉田：楽しむために努力していることはありますか？

上地：う～ん…(考えて)“集中する”こと、“練習や試合に入り込んでいく”ことですかね。コートに入ってまずイメージと実際のプレーにズレがある状態からスタートして、徐々に合わせていく、そうすると気持ちも入ってくる、そんな感じです。でも、ボールを打っていること自体が楽しいので…ボール出しの練習がほとんどなのですが、1日に800球ほど打ちます。ラリーよりもボール出しをしてもらって、自分の中の“良かった”という感覚を研ぎ澄まし“もっと良かった”に繋げることとか、“さっきの方が良かった、何が違ったんだろう”と考えることが楽しいです。

吉田：普通の人には延々と続くボール出し練習を、「苦しい」「きつい」と感じると思うのですが…そこは国枝選手とも通ずる部分ですね。国枝選手もボール出し練習が大事だとおっしゃっていました。それは世界チャンピオ



ンになる人特有の感覚かもしれませんね。外国人選手はきっと耐えられないですね（笑）

上地：そうですね、早くラリーを！ってなると思います（笑）

吉田：先ほど「全てのショットが平均的」とおっしゃいましたが、以前拝見したテレビではトップスピンの凄いと取り上げられていました。やはり凄いのでしょうか？

上地：スピンを打つ選手があまりいないです。単発で打つ選手はいますが…私は背が高くないので、先にスピンの高く弾ませて、相手の返球が浅くなったところを叩いて決めるというパターンを大事にしています。そこが他の選手と違うところかな、と思います。

吉田：バックハンドのトップスピンへの取り組みは比較的ゆっくりでしたよね？

上地：ランキング1位になってからですね。それまではスライス一辺倒でした。2014年にナンバーワンになり、研究され始めて負けるようになって…“何かを変えなければならぬ”と感じていた時にコーチから提案されました。取り組み当初は試合でもなかなか勝てず、“勝ちたい”という気持ちと“でも2016年のリオまでに完成させるために今やるしかない”という気持ちの間でジレンマがありました。結局は間に合わなかったのですが…他にも色々変えているところはあります。

吉田：これはまだまだ進化するんですね！ところで、世界の女子でバックハンドのトップスピンを打ち続ける選手はいないのですか？

上地：いることはいるのですが、少し種類・使い方が違って、やはりハードヒット・スピードボールでの展開が中心です。私は凄く回転を掛けたボールで展開をつくるタイプなので、そこが違います。でも今は、速いボール・決め球としてもバックのトップスピンを使えるよう

に練習しています。他にもサーブや車いすも変えました。座面が高くなったので打点も上がり、上から速いボールを打ち込めるようになりました。プレースタイルも変わりました。

吉田：どのくらい高くなったのですか？

上地：タイヤを26インチから27インチに変えました（約3cm/インチ）。それに合わせて座面も1インチ上げました。おかげで、ネットから顔が出るようになりました（笑）

吉田：メリットばかりでなく、そこには当然リスクもあると思うのですが？

上地：これが完成形ということではなく、何かを変えなければならぬという思いが先にあって、まずはタイヤかなと…無理なら26インチに戻せばいいし、良ければそこから微調整すればいいやと…今のところ意外にしっくりきています。他にも色々微調整を加えながら2台目もつくっている最中です。

吉田：なるほど、今は技術面やハード面に色々改良を加えている最中ということですね。では、いよいよ2020年に向けてですが、ご自身に何を期待したいですか？

上地：そうですね…う～ん…（考えて）今年1年間ノープレッシャーでやってきて…車いすも変えたことだし、そんなにうまくいかないだろうと思いつつやってきた結果が良かったので…リオの前は自分への期待が大きく“やってきたことを全て出して勝たなくては！”とプレッシャーがあったのですが、自分の中に課題があるくらいの方が心にも余裕ができて集中できると気付いたので、2020年についても“東京パラリンピックだから”“金メダル”“ここがゴール”と思うよりも、そこに近づいている過程と捉えた方が自然体で挑めると思います。

吉田：なるほど、ご自身はあくまで自然体ということですね。ただ、どうしても周囲の方が期待してしまいますね。

上地：私自身は周囲から「頑張っ！」と言われることがプレッシャーにならないタイプなので、応援してもらえたらその分頑張ることができます。今は自分自身でプレッシャーをかけないことに一番気を付けています。

吉田：準備万端整えて、さあ！ではダメなんですね…確かにフェデラーなど世界の頂点を狙う人は、目前の大会に照準を合わせるというより、さらに上、常に先、を見据えていますよね…そういう大きさを見せることができれば強いですね。もっとも相手としてはしんどいでしょうね…目の前にいる上地結衣とだけ戦うのではなく、“ありたい姿”を目指す見えない上地結衣とも戦わなければならないのですから…余談ながら2007年頃にローランギャロスでドライブボレーの練習に明け暮れるナダルを見たことがあります。ナダルがクレイコートでドライブボレーを使うとも思えないので、それは目前の全仏OPに勝つことは普通のことであって、その先のウィンブルドンを見据えていたのだと思います。

上地：それくらいの心の余裕を持って臨みたいと思います。

■これからの日本社会とパラスポーツ

吉田：では最後になりますが、日本の社会に対して“こうなって欲しい”という思いなどはありますか？

上地：リオから帰った当初は、街中で声を掛けていただくことやインタビュー・イベントなどに呼んでいただく機会も多かったのですが、東京オリンピック・パラリンピックを1000日後に控えて気運を盛り上げていかなければならない今、少しボルテージが下がりつつあると感じています。リオの熱狂の反動もあるかもしれませんが、ロンドンなどは未だに車いすのレーサーがテレビ・CMに継続的に出演しています。このままでは一過性のブームに終わりがかねないので、そうならないようにと願っています。

吉田：それは業界を挙げて考えなければならない課題ですね。

上地：テニスは比較的恵まれている方だと言われます。1年に4回グランドスラムという大きな大会があり、健常者・障がい者が同時開催され注目度も高いので、パラスポーツの中でも花形と言われます。そうした中でテニスで引張ることはもちろんですが、テニスだけではなく、他のパラスポーツも同様に注目を集めるようになればいいな、と思います。

吉田：パラスポーツが普通に存在する、身近に感じてもらえる世界の実現には何が必要でしょうか？

上地：ドキュメンタリーやバラエティ番組でオフの姿や、イベントなどで柔らかい表情を見てもらうことも大事で

すが、同じくらい、アスリートとして一番輝いている競技での姿を見てもらうこと、そこにフォーカスしてもらうことが大事だと思います。観客に面白いと思ってもらえるような試合をすることが自分たちの使命だと思いますが、違う方面からのアプローチとしては、そうした競技者としての面を見てもらえる機会もつくって欲しいと思います。

吉田：地上波のテレビだけではなく、インターネットで見たいと思った人が簡単にアクセスできるような環境づくりが必要ですね。例えばその日のハイライトシーンを「ショット・オブ・ザ・デイ」などの映像にまとめる等、いかにわかりやすく魅力を伝えるか、選手の方々と協力しながらアイデアを考えていきたいですね。

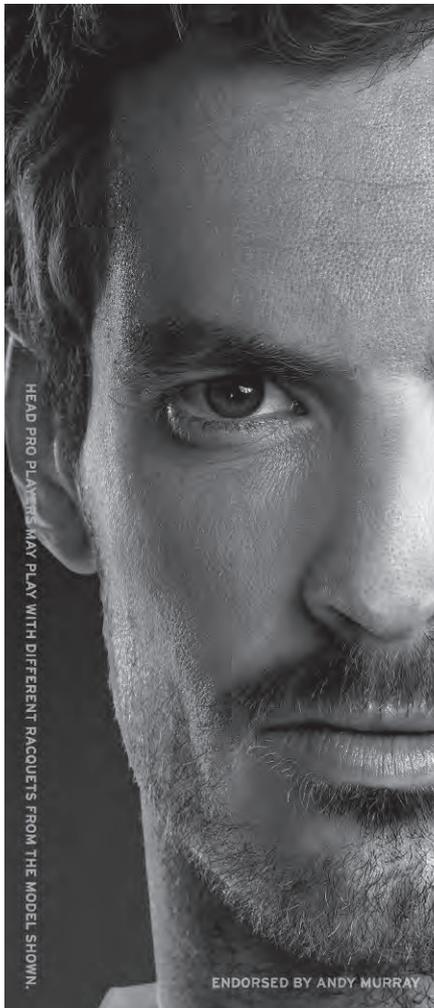
上地：今年のウィンブルドンでは、「ショット・オブ・ザ・デイ」に、健常者のプレイに混ざって車いす男子ダブルスのプレイが選ばれ、動画再生数も大きく伸びました。選ばれた本人はもちろんですが、私も自分のことのように嬉しかったです。

吉田：最後になりますが、今後、上地選手にはますますのご活躍を期待したいと思います。やがて上地選手に憧れて車いすテニスを始めるジュニアが出てくるように、我々事業者もパラスポーツをより知る機会をつくるべく積極的に関わっていききたいと思います。

本日はお忙しい中お時間をつくっていただき、ありがとうございました。

上地：こちらこそありがとうございました。





HEAD PRO PLAYERS MAY PLAY WITH DIFFERENT RACQUETS FROM THE MODEL SHOWN.

ENDORSED BY ANDY MURRAY



RADICAL

NO SHOT YOU CAN'T PLAY

THE NEW HEAD
RADICAL SERIES

世界のラケットのベンチマークとなるべく確固たるポジションを築いているラジカルが、グラフィンタッチの採用によりさらにグレードアップ。究極のオールラウンド・ラケットを追求して、パワー、コントロール、スピン、そしてフィーリングを高いレベルで融合。アンディ・マレーのような「あらゆるショットを可能に!」を実現する。

HEAD Japan head.com フリーコール 0120-996-952
tennis facebook.com / headtennis youtube.com /
headtennis twitter.com / head_tennis

HEAD®

S-MACH

Tour

もはやただの道具じゃない、パートナーだ。



Toalson®

株式会社トアルソン
本社 / 〒651-0078 神戸市中央区八雲通3丁目1番24号 PHONE:078-232-1991(代表) FAX:078-232-0213

www.toalson.co.jp



お陰様で創業50年を迎えます 弊社の原点はテニスコート整備です

営業種目

- 総合運動公園 ●陸上競技場 ●野球場 ●サッカー場 ●ラグビー場 ●テニスコート ●バレーボールコート
- バスケットボールコート ●ゴルフ練習場 ●相撲場 ●弓道場 ●ボルダリング ●スラックライン
- 整地造成造園 ●遊園器具 ●給排水設備 ●スプリンクラー設備 ●照明設備 ●建築工事 ●土木工事
- 学校運動場 ●その他関係附帯工事一式 ●スケートボードパーク

50th
1969 - 2019
SPORT'S PRIDE



ちょうえい

長永スポーツ工業株式会社

長永スポーツ

で 検索

TEL:03-3417-8111 FAX:03-3417-8166 東日本エリア・西日本エリア

一球が決めるドラマ

ボールのゆくえを固唾をのんで見守る観客。
コート上で繰り広げられるプレーは、最高のドラマ。
選手を支えるものは、己の力と周囲の声援、
そして、最高のプレーを演出するコート。
NIPPOは、感動と驚きを生み出す空間を、
最先端の技術で提供いたします。

有明テニスの森公園テニスコート

この道の先に
NIPPO

株式会社 NIPPO

本社 東京都中央区八重洲1丁目2番16号 TGビルディング
Tel (03) 3563-6711 <https://www.nippo-c.co.jp/>

コート成全豪仕様にしてみませんか

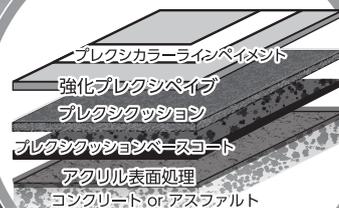
オーストラリアンオープンオフィシャルサーフェス プレキシクッション



Plexicushion

【製品特徴】

- 足・腰への衝撃を和らげる多層クッション構造!
- 表面処理加工により、バウンドのスピードをコントロール!
- ご要望のカラーに応える多彩なカラーバリエーション!
- 維持管理費のコストを軽減する経済性!



プレキシクッション正規輸入代理店 PLEXICUSHION JAPAN

株式会社新光トレーディング

California
SPORTS SURFACES



〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27-3 やまとビル8F

TEL: 03-6865-6595 FAX: 03-6865-6566

HP: <http://plexicushion.jp> E-mail: plexicushion@plexicushion.jp

テニスコート

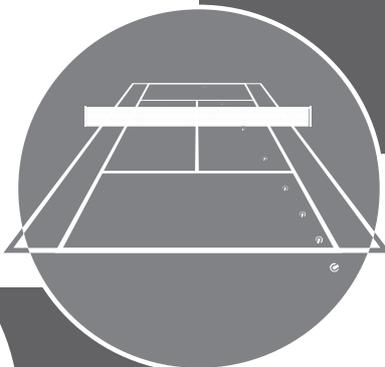
<http://www.maedaroad.co.jp/>

〒141-8665 東京都品川区大崎1-11-3
TEL 03-5487-0031

前田道路はクッション性の高い
ハードコートのラインナップを
取り揃えております。

リバウンドエース

Australian Open ~ 2007



ITF CATEGORY 3
JTA 推薦

前田道路株式会社

プレキシクッション

Australian Open 2008 ~



MAEDA のハードは スローハードコート

COURT CONSTRUCTOR
MAEDA ROAD





もう一步先のフィールドへ。



最新情報はホームページでご覧頂けます
<http://www.ntssports.co.jp>

日本体育施設

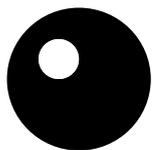
検索



本 社 / 〒 164-0003 東京都中野区東中野 3-20-10 TEL.03-5337-2611 FAX.03-5337-2610

ISO9001
JQA-Q3M8318

ISO14001
JQA-EM6420



ONO SEKKEI

お客様の夢を、カタチに・・・

株式会社 小野設計

代表取締役社長 大西久樹

本 社 〒670-0055 兵庫県姫路市神子岡前1丁目2番1号

TEL 079-292-1234

FAX 079-296-4215

大阪事務所 〒530-0001 大阪市北区梅田 1 丁目 2 番 2-300

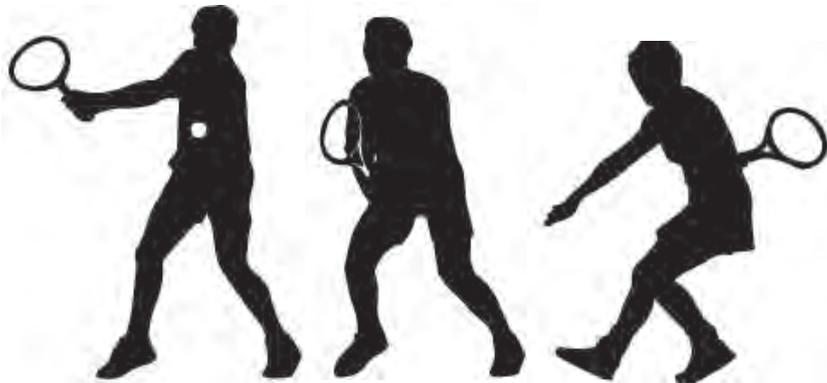
TEL 06-6453-2345

大阪駅前第 2 ビル 3 階 302-1

FAX 06-6453-0758

HP <http://www.onosekkei.com> E-Mail info@onosekkei.com

会費の集金、お手伝いいたします。



創業35年の実績
初期費用不要
全国の金融機関利用可能
ペイジーで口座登録が簡単！

● 明治安田生命グループ

MBS

ご利用実績 全国17,000件 明治安田生命グループが提供する 安心の口座振替サービス

明治安田システム・テクノロジー株式会社
MBS事業部門

東京営業部：東京都江東区東陽2-2-20 東陽駅前ビル10階 (TEL: 03-3615-3121)

大阪営業部：大阪市中央区南本町1-7-15 明治安田生命堺筋本町ビル8階 (TEL: 06-4964-2811)

<http://www.mbskk.co.jp>



アスリートを強かにサポート！！

cure
治療



care
予防

時代は“u”から“a”へ

家庭用低周波治療器

サン **マッサーホット 33**



認証番号: 227ADBZX00040000

頑張るあなたに健康サポート



★適応症

- 肩こりの緩解
- マッサージ効果
- 麻痺した筋肉の萎縮の予防

★特徴

- 温熱導子で暖めながら治療
- ガイダンス機能で簡単操作
- マイコン内蔵により、肩、ひざ、腰、背、腕・脚、足底、背・腰、棒型のプログラム治療ができます。



丸菱産業株式会社
東京支店

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58-402

TEL03-3513-7756 FAX 03-3513-7897

URL <http://www.marubishi.com>

ゴクゴクで、
イキイキ。

こころからだに、
おいしいものを。

DyDo



海洋
ミネラル
深層水



熱中症
対策



miu おいしさ、ミネラル、いいとこどり!

※この商品のミネラルとは、ナトリウムとカリウムのことです。miu、miuレモン&オレンジは、純水に室戸海洋深層水由来の成分を添加しています。miuプラススポーツのアミノ酸とは、ロイシン、イソロイシン、バリンのことです。室戸海洋深層水の原水を3.5%使用しています。※miuプラススポーツは、全国清涼飲料工業会の定める「熱中症対策」表示ガイドラインの基準を満たす商品です。

ダイドードリンク株式会社 

匠人達が、
如何なることにも
完全対応

<http://lhokuetsup.co.jp/>



ホクエツ印刷株式会社

〒135-0033

東京都江東区深川2-26-7 北越ビル

TEL: 03-5245-8821 FAX: 03-5245-8828

hokuetsu



この空気や風までも、
飲んでいるのだ。

JTIA 賛助会員のご紹介



■特別賛助会員 (50 音順)

株式会社青山財産ネットワークス	個人財産・法人財務・不動産ソリューション等コンサルティング
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-4-14 青山タワープレイス 3F	Tel. 03-6439-5801 担当 有田 能正
サントリービバレッジソリューション株式会社	清涼飲料水及び加工食品の販売
〒107-0031 東京都中央区京橋 3-1-1 東京スクエアガーデン 11F	Tel. 03-3275-7722 担当 相馬 雄二
スポーツサーフェス株式会社	テニスコート設計・施工
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-2-10 坂田ビル 5階	Tel. 03-6202-0757 担当 三浦 典男
ソニー株式会社	スマートテニスセンサー、スマートテニスレッスンシステムの開発及び販売
〒141-8610 東京都品川区大崎 2-10-1	Tel. 050-3141-2961 担当 中西 吉洋
ダイドードリンコ株式会社	清涼飲料水等製造及び販売
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館 4F	Tel. 03-5730-1213 担当 田口 智行
株式会社ダンロップスポーツマーケティング	スポーツ用品メーカー
〒108-0075 東京都港区港南 1-6-41 品川クリスタルスクエア 7F	Tel. 03-5463-7324 担当 西村 健
長永スポーツ工業株式会社	スポーツ施設の企画・設計・施工
〒157-0076 東京都世田谷区岡本 3-23-26	Tel. 03-3417-8111 担当 鬼頭 芳弘
テニスサポートセンター	オリジナルテニス商品・テニス用品販売、中古ラケット買取・販売
〒181-0003 東京都三鷹市北野 4-1-25	Tel. 03-5314-3734 担当 中山 和義
株式会社ネスティ	テニスクラブ・スクール運用ソフト開発・販売等
〒141-0022 東京都品川区東五反田 1-9-4 五反田宏陽ビル 7F・5F	Tel. 03-3473-5168 担当 吉田 浩道
株式会社ビーシーセンター	ASPによる会員管理システム&e-ラーニングシステム等
〒271-0052 千葉県松戸市新作 240-3 プレメンスト 401	Tel. 03-3209-6111 担当 高山 純寛
社会保険労務士法人プロジェクト	日常の労務問題等に関する相談等
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-4-14 青山タワープレイス 3F	Tel. 03-6439-5585 担当 福田 良枝
ヨネックス株式会社	テニス用品メーカー
〒113-8543 東京都文京区湯島 3-23-13	Tel. 03-3839-7120 担当 首藤 康一

◆協力賛助会員 (50 音順)

株式会社アイエス	各種印刷物、広告物、屋外広告、看板、幕、のぼりの製作会社
ジャパンリスクマネジメント東京株式会社	生命保険・損害保険代理店
株式会社ダイエープロジェクト	スポーツ施設用大型テント、スポーツ施設設計・施工等、その他建築工事一式
東京ウェルネス株式会社	テニス施設・インドアコート・スポーツ施設設計・施工
東京海上日動火災保険株式会社	損害保険全般
ホクエツ印刷株式会社	印刷業

□賛助会員 (50 音順)

株式会社 INE	環境事業「LED・新電力」・法人向けコスト削減コンサルティング
アシストインターナショナル株式会社	テニスコート設計・施工、人工芝輸入・販売・施工
アメアスポーツジャパン株式会社	スポーツ用品製造・販売
株式会社エイブリッツ	スポーツグッズの輸入・企画販売、広告業
株式会社エスコ	キュービクル保守点検・LED・新電力サービス、補助金活用コンサルティング、太陽光発電システム
株式会社小野設計	建築設計・監理
株式会社オリコビジネス&コミュニケーションズ	LED・空調機器その他
NPO グローバル・スポーツ・アライアンス	スポーツを通じた地球環境保全活動
グロープライド株式会社	スポーツ用品の製造ならびに販売等
株式会社ゴーセン	テニス用品製造・販売
ゴーツスポーツ株式会社	屋外スポーツ器材・備品の販売及びメンテナンス
合同会社 SUN・PLUS	健康食品、サプリメント企画・開発・卸・小売、スポーツ関連イベントの開催、他
株式会社 GNE	省エネ・省コスト事業全般
ジャスバス株式会社	振替口座の印鑑不要な口座振替受付・集金代行サービス、クレジットカード決済システムの提供
株式会社新光トレーディング	スポーツサーフェイス輸入販売、施工管理
株式会社スポーツサンライズドットコム	スポーツイベント企画・運営、選手データベース管理
株式会社スポレングス	スポーツ科学の促進、スポーツ測定・分析の実施、スポーツコンサルティング

株式会社住ゴム産業	スポーツ舗装材(人工芝・ゴムチップ等)の販売・施工
泉州敷物株式会社	人工芝生・成形品・不織布の製造・販売、スポーツサーフェスの設計・施工
総合警備保障株式会社	機械整備・常駐警備・警備輸送・総合管理・防災業務等
ターフサイクル株式会社	人工芝リサイクル事業
大和ハウス工業株式会社	電力自由化に伴う電気代削減提案、太陽光工事等
大和ハウスパーキング株式会社	コインパーキングのトータルプロデュース、スポーツ施設の企画・設計・施工等
タロスカイ株式会社	WEBサイト作成、映像製作、印刷物製作、テニスポータルサイト運営
地業建設株式会社	テニスコート施工
株式会社トアルソン	テニス・バドミントン・スカッシュのストリング製造・販売
株式会社日東社	マッチ・ポケットティッシュ・名入れライター・ノベルティ用マスク等の製造販売
株式会社 NIPPO	テニスコートの設計・施工、スポーツ施設の設計・施工
日本体育施設株式会社	各種運動場の基本計画・設計施工・請負及び監理等
株式会社 Padel Asia	パデル施設の運営、輸入・販売、パデルを活用した経営コンサルティング
株式会社 PURE BALANCE	トレーニング施設運営事業、トレーナー派遣・育成事業
株式会社フュービック	テニスポータルサイト「tennis365.net」の運営
株式会社ブラーボデザイン	フットサル施設運営、フットサル及びサッカー学校企画運営、スポーツ施設の施工・工事
ブリヂストンスポーツ株式会社	ゴルフ・テニス用品製造・販売
ペイントマノン	建築塗装
HEAD Japan	スポーツ用品の輸入販売 HEAD、Tyrolia ブランド
前田道路株式会社	スポーツ施設の設計・施工
有限会社マツオホケンサービス	保険代理業
株式会社マックスヒルズ	広告の企画・立案・製作・実施、セールスプロモーション企画、ホームページ制作管理等
丸菱産業株式会社	家庭用温熱導子付低周波治療器「サンマッサーホット 22BL」製造・販売
ミスノ株式会社	総合スポーツメーカー
ミラクル株式会社	スポーツ器具の開発・製造・販売、脚の健康に良い履物などの開発・製造・販売
明治安田システムテクノロジー株式会社	キャッシュカード利用の口座振替受付サービスを含む預金口座振替による集金事務代行業務
株式会社ライフ・デポ	スポーツ施設設計・施工・メンテナンス・LED照明等
株式会社ライフターゲット	海外テニス留学斡旋、ホームページの製作、テーピングテープの販売
株式会社 Life Bridge	LED照明・空調機器の販売
有限会社リパティヒルバケーション	旅行業
株式会社両備システムソリューションズ	会員管理システム
株式会社 WOWOW	衛星を経由した有料放送事業
ワールドスポーツアパレル株式会社	スポーツ用品の企画・製造・販売

編集後記

皆様こんにちは！

この度 JTIA News! 25 周年記念号を発行するにあたり、ご協賛いただきました皆様、インタビューに協力いただきました上地選手、綿貫選手、また寄稿いただきました皆様、本当にありがとうございました。また何時もこの JTIA News! の編集から事業協会のすべての活動を裏方として支えていただいている事務局の皆さんを御礼方々この機会にご紹介させていただきます。



本当にいつもありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願ひ致します。

今年最初のグランドスラム、オーストラリアンオープンも終わり、選手たちの過酷な戦いがスタートしました。年末の ATP ファイナル、WTA ファイナルには誰が出場するのか目が離せませんね。今年一年テニスさらに盛り上がる様、そして皆様の事業がさらに発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

JTIA News! 2018.1 Vol.75

発行:公益社団法人日本テニス事業協会

発行日:平成30年1月31日

発行責任:大久保 清一

編集責任:吉田 好彦(広報委員長)

発行所:公益社団法人日本テニス事業協会

TEL.03-3346-2007

FAX.03-3343-2047

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-8-3

小田急明治安田生命ビルB1

<http://jtia-tennis.com>

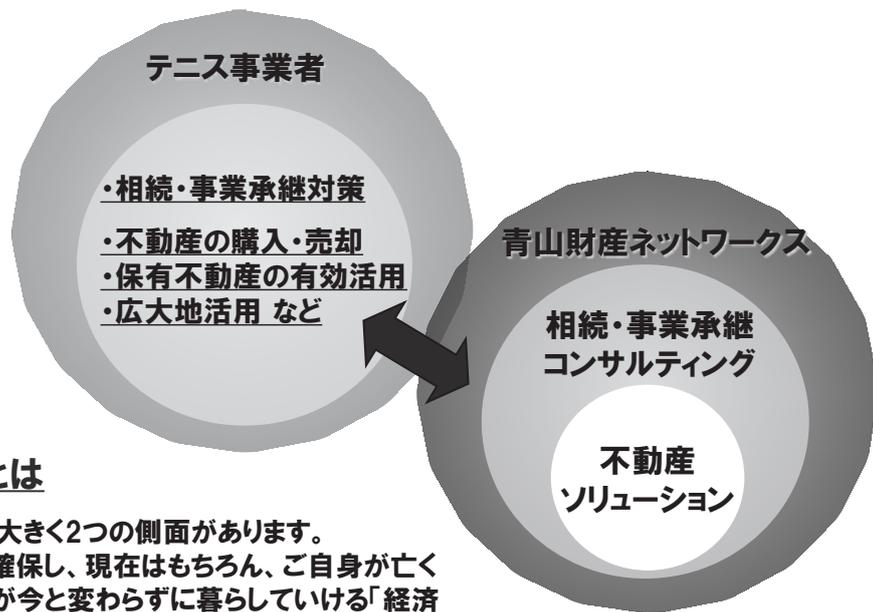
mails@jtia-tennis.com

祝 日本テニス事業協会設立25周年

財産のことなら青山。

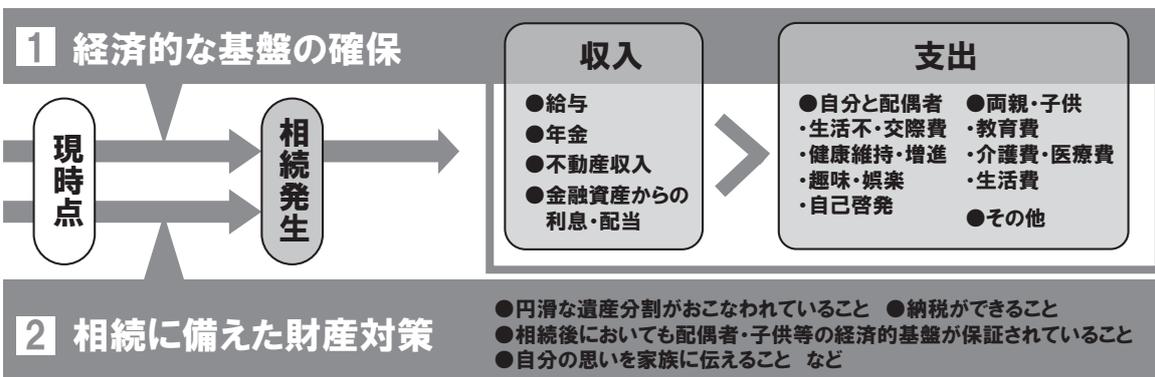
テニス事業者の皆様の相続や不動産に関する様々な課題を
確かなソリューションにより解決に導きます。

テニス事業者の皆様の主要な資産である不動産に関連したソリューションを核に、相続を取り巻く様々な分野から、保有不動産の有効活用・売却や収益不動産の購入まで、多岐にわたる課題解決をお手伝いします。また、コンサルタントと各種専門家がチームを組み、皆様それぞれの課題に対して、より最適なプランをご提案します。



私たちが考える 「財産の保全」とは

「財産の保全」には、大きく2つの側面があります。
1つは十分な収入を確保し、現在はもちろん、ご自身が亡くなられた後もご家族が今と変わらずに暮らしていける「経済的な基盤の確保」です。そしてもう1つは「相続に備えた財産対策」。相続対策を行うだけでなく、将来、財産争いが起きないように事前に準備を進めておくことが重要となります。





DecoTurf®

DECOTURF, A GREAT DREAM FOR 2020



会員管理システム

ServiceAce®

ASPサービス型

<http://www.bccenter.co.jp/school>



会員システムは 集客ツールへ!



集客 ツール

新しいお客様・リピートのお客様を
確実に増やします

- イベント機能で会員様がもっと会場に
- ターゲット限定機能付きメール機能で
エントリー増加
- IT パワーで気軽に楽しめるスクールに

サービス 向上

親切丁寧・より充実した
接客サービスに時間を使おう

- いつでも簡単・気軽な予約振替
- フェリカで簡単チェックイン

複雑な料金体系や
振替制度にも対応!

社員が 喜ぶ

イベントの企画～運営までが簡単に

- メールでお知らせ、チラシまきの代わりに使おう
- 設定から公開までが簡単・早い
- EXCEL で出力機能～コーチのイベント出欠管理
も簡単に

簡単管理、統合管理

- 予約振替、定員管理、入金管理のミスを減らす
- 売上管理、入金管理も一元化

電話対応に振り回されない
ホームページにも公開可能